

1988年 7月22日発行 20頁 1,200円(税別) 定価1,200円
〒100-0001 東京都千代田区千代田 1-1-1 日本郵政公社 郵便局特約店

聖徒の道

7





心の糧

十二使徒評議員

デルバート L. ステイプリー

イエスは全人類に対する限りない知恵と配慮をもって、示現をお開きになり、われわれが住むために備えられている天の家をかいま見せて下さった。われわれは各々、永遠の家庭すなわち永遠の生活をする天の家を、現在無意識のうちにも刻々と築いているのである。

忠実な人たちにのみ約束されている、最高の栄えに到達するためには、われわれは奮ってあらゆる努力をする必要があり、神の教えをうけずにこの栄光の状態にどうしても達することはできない。

真に霊的な人とは、祈り、謙遜、無私の奉仕、親切、高德、貞潔、神の御意と律法に対する従順、偽らない愛、気高い心、神聖なものに対する敬意などのあらゆる特質の中に、喜びと幸せと真の目的を見いだす人である。神がこれらの特質をこの地上で肉体において得させ育んでくださるのである。

われわれは短い死すべき生涯の間に必ずしもそれら全ての特質を身につけることはできないが、それらを履み行うことにより、永遠の生活を営むことのできる建物を賢明に築き上げるのである。

も く じ

予言者のことば	大管長 デビッド O. マッケイ	135
「レーマン人の時」	リン M. ラウンディー	137
「開拓者記念日」		143
管理監督会のページ		
「尊 敬」	ジョン H. ヴァンデンバーグ	144
扶助協会		
「婦人の輝かしい目的」	ハロルド B. リー	146
日曜学校		
「聖典を用いなさい」	ローエル L. ベニオン	149
「リーハイの石」	リチャード O. コワン	151
若人のページ		
「悲劇か宿命か」	スペンサー W. キンボール	152
M. I. A.		
「M. I. A. を知ってから」	フローレンス S. ジェイコブセン	156
系 図		
「神の子」		158
総大会特集 1		160
ローカルニュース		167
「内なる力」	スターリング W. シル	裏表紙

子 供 の ペ ー ジ

「次郎と夢」	バーナディーン・ビーティ	25
「南極のふしぎな火」	アルマ・シー・デニー	29
「小石ひろい」	ソルヴェーグ・ポールソン・ラッセル	29
「ボールばこでたのしくあそびましょう」	イー・ラバーン・シェパード	32

教会歴史

7月24日

開拓者記念日

1847年ブリガムヤンク大管長
と他の聖徒たちソルトレーク
に到着す

今月の表紙

この美しい写真は、ドイツのウルムに住むコンラッド・パールにより撮影されたものである



一言抄

大管長 デビッド O. マッケイ

最大の成功と心の満足を得たいなら、イエス・キリストの福音を毎日実践せよ。

選んだ職業がなんであろうとも、より優れた人となるよう、最善をつくせ。

人は信ずることを常に心に思い、その思いに従って生きるものである。

人は理想を越えたものになることはない。理想に達しないことはあっても、越えることは決してない。

この世の有益なもの、楽しみ、喜び、幸せを得るには「まず神の国を求めよ」というキリストの勧めに従わねばならぬ。

自らをクリスチャンと呼ぶ人々が、世の王と言うお方の指導のもとに進んで加わり、その徳高き霊的な教えを理論ではなく事実として受け入れ、利己主義を他人への親切と思いやりに代え、また積極的に真の自由の原則を守る時こそ、誤謬が取り去られる望みが生じ、義が人類の心を占め、正直な人間関係が日常の社会習慣となるであろう。それはこの世が神の王国となる時である。

たしかに自己保存は自然の第一原則であるが、霊的成長の原則ではない。利己主義と己の情欲に身を委ねる人は、霊を奴隷の状態におく人である。霊の力を敬い高め、個人のわがままや安楽を越えて崇高な目的につかえんとする精神と理想を持つ人は、幸せで有益な人生の第一歩を踏み出す。

今こそ、人々がいかにして世界を住みよい所にするかを、互いに語り、賢明に決めるべき時である。

世界が最も必要とするのは、ナザレのイエスの福音を信ずる生き生きとした信仰であり、真面目な信仰をもつ者が、真理を宣言しなくてはならぬのは、それを拒む者が多いからである。

人は無私の原則にさらに献身する必要がある。人が己のためにのみ生きている限り、世に平和や自由は決して訪れるはずがない。

真の生命と永遠の生命は、キリストとその律法に従うによりて来る。

イエス・キリストの福音の真理が終りに必ず勝利を得ることを信ずることなしに、われわれが神の子であり、神が生きてましますことを真に信ずることはできぬ。

バプテスマの水際、聖餐式、「神の家」にてなした誓約の下に、謙遜の原則に従って生きるなら、立派に使命を果して、あなたがたは神により報いられる。

教会の使命は、回復された福音の真理を広め、人々が良き相互の交わりをもつよう社会を啓蒙し、健全な環境をつくることにある。そこで子供たちを誘惑に打ち勝たせ、文化的、霊的発達をうながす。

回復された福音は、この世と来たるべき世において、いかにして人間が幸福になれるかを教える理性的哲学である。

神は責任と召しを忠実に果すようわれわれを助けたもう。とりわけ天与の宝であるシオンの子らの父母としての責任に対して助けたもう。

悪の力に屈して人格は決して高まらぬ。人格は悪の力に立向うことによりもたらされる。

自然の律法は適者生存、神の律法は「他人の進歩、幸福のため、己が財産と能力を用いよ」である。

回復された教会の会員にとって、結婚は神により定められた儀式であり、天父の英知に導かれる時には、人類の進歩に貢献する最良の方法となる。結婚は軽々しく行い、随意に止めてしまうべきものではなく、問題が生ずるとすぐにも解消してしまうような結合でもない。

家庭を清い、価値あるものとしてゆく能力は、末日聖徒イエス・キリスト教会にある。

神こそわれわれと世のあらゆる人々の生活の中心となるべきお方である。

人格の形成は外的環境のみによるのではない。人生の諸徳は内から湧きいずるものである。

絶えず正しい思想と感情を抱いていると、おのずと正しい行いが生まれる。

どんなにハンサムな若者やどんなに美しい乙女でも、気むずかしい、不機嫌な思いや、心の不満をつのらせると、美しさを台無しにしてしまうものだ。

サン・ブラス・インディアンと彼らへの伝道の歴史を書くなら大変長くなるでしょう。パナマ運河地帯のアメリカ合衆国陸軍基地で私たちは初めてサン・ブラスの人々、すなわちクナと呼ばれる人々と会いました。インディアンたちは基地の炊事夫や雑役夫としてやとわれていました。この基地の中で私たち宣教師はハダを通じて無意識の中に教会に興味を抱いていることが感じられるようなたくさんの15才位かそれ以上と思われる青年たちを発見しました。その中の多くの青年たちに福音が述べ伝えられ彼らはバプテスマを受けました。彼らはまた家族にも福音が教えられるように望みました。それで彼らの両親のことをたずねるとインディアンの青年たちはサン・ブラス諸島のことを話してくれました。説明によるとコロンとパナマ・コロンビア国境の間に約60程の小さな珊瑚礁の島々があり、そこに3万ぐらいの純血のインディアンの集団が生活しているとのこと。この話を聞いて長老たちはだんだんとクナの人々に興味を感じその諸島を訪れてみることにしました。島を訪れた時、島の人々は大変私たち

まって「イベオルガンだ」と叫ぶのです。長老たちは継続してこの島を訪れ彼らに福音を教え、いつかきっとこの島にも専任の宣教師たちが遣わされる日がくるであろうと約束しました。約束の日がくるまでかなり長い時間がかかりましたが、ついにパナマ政府はサン・ブラスの人々へ伝道を許可することになりました。1965年の9月に完全にパナマのレーマン人たちへ福音が述べ伝えられる道が開かれたのです。この9月に中南米伝道本部の新しい部長にテディー・ブリワートン兄弟が任命され、サン・ブラス諸島を特別に訪問し、伝道のためにこの島々に宣教師たちを置くことができるように許可を求めました。最初の長老たちの住む場所としてこの諸島で一番大きいウスツプ島が選ばれ、ブリワートン伝道部長はこの

レーマン人の時

リン・M. ラウンディー

に好意的で謙遜に福音を受け入れようとしていることを知りました。島の人々の好意的な態度に自信のわいた宣教師たちは定期的にこの島を訪れるようになり、パナマ本土にある彼らの農場で共に働き、部落の男たちに、夜開かれた非公式な指導者の集まりにおいて、福音を教えました。インディアン会員の通訳によって長老たちはモルモン経物語を教えました。彼らインディアンの間で昔より信じ伝えられている神より直接遣わされたと言う偉大な予言者の話に大変似ている所があることを知りました。この予言者の名はイベオルガンとして知られ、彼はインディアンに隣人愛、幸福、豆類の植え方、薬の作り方などを教え、また彼自身人々の病をいやす力を持っていたのです。彼はインディアンと一緒に長くは生活しませんでした。彼は別れをつげる時いつでもインディアンが彼のことを思い出すことができるように一つの目印を残して行きました。その目印は十字架でありました。今日多くの年老いたインディアンたちは予言者イベオルガンがイエス・キリストであったという説を否認していますが、私たちがアーノルド・フリーバーグ画伯により描かれた「イエス・キリストのアメリカ大陸訪問」の絵を見せると彼らは最初にき

ユダヤ鼻のレーマン人の婦人、イヤリングは1組54,000円鼻輪はクナの伝統的な服装の一部である。

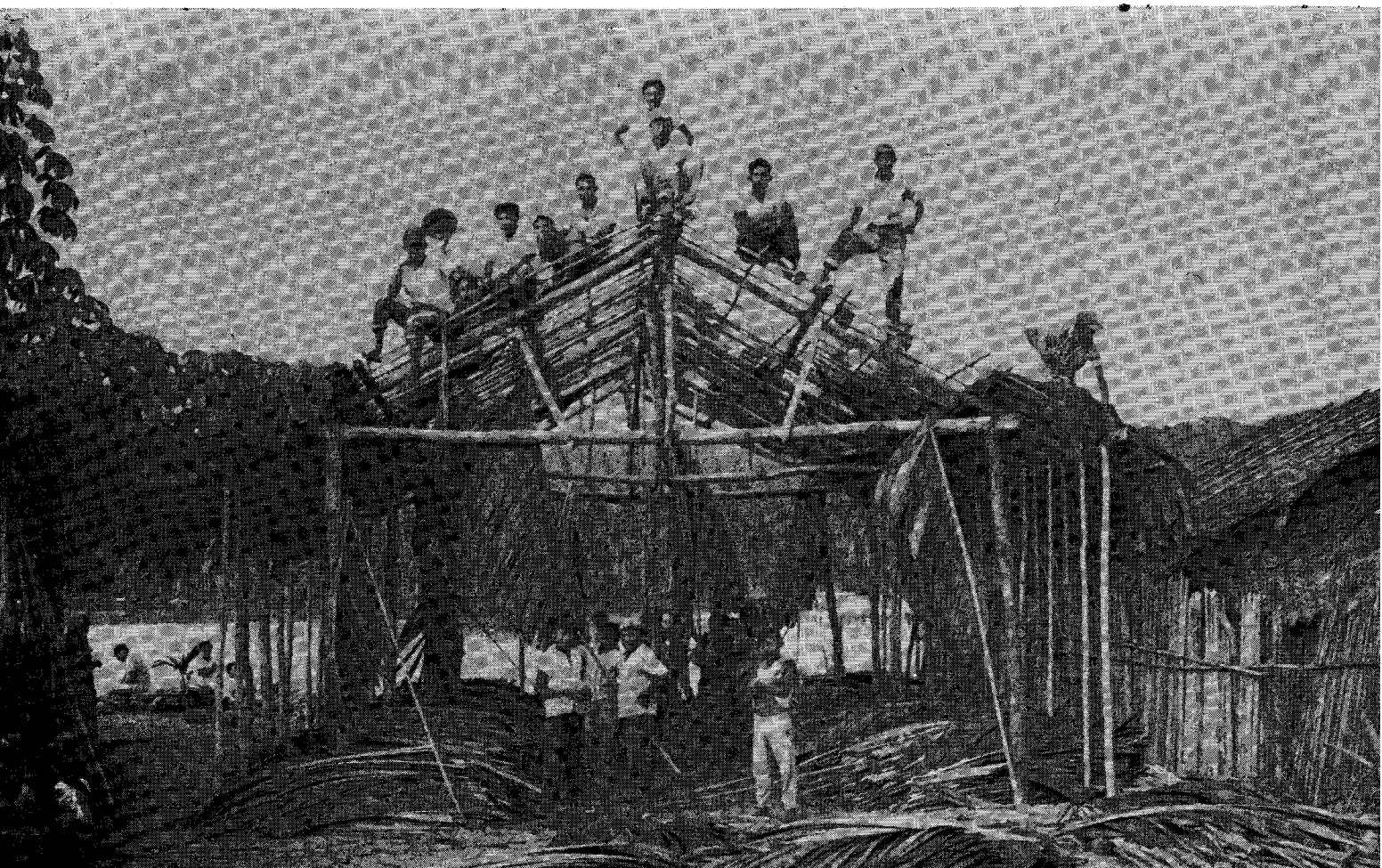


島の村議会で私たちの教会の教義と目的について説明し、島の人々から拍手喝采を受けました。この時にカシクというこの諸島の三人の大酋長の一人が立ち、正式にサン・ブラスへ教会を歓迎する態度を明らかにします。10した月の初めにロイド・ベーカー、レスリー・ウェブ、デビッド・スーメンズ、そしてスティーヴ・ヘールの四人の宣教師たちは本格的にウスップ島での伝道を開始しました。そしていくらかすぎない内にこの島での伝道の成果により他の島々にも同じように伝えることができることになりました。11月にブリワートン伝道部長はスティーヴ・ヘール及びリン・ラウンディー両長老を1月にカルティツピール島に送り伝道を開始することを発表しました。この島が他の島々にさきがけて選ばれた理由はこの島の人々の強い要望があったからであります。私が最初にカルティ島を訪れたのは1965年の6月のことでしたが、島に着くや否やいきなり島の酋長サヒラに「遅いぞ」とどなられました。そしてすぐに島のはずれの方に連れていかれ、「こゝにわれわれはあなたの住む家を作るのです」と言われました。カルティ島の人々はいつも親切にしてくれました。そして私の同僚のスティーヴ・ヘール長老と私が1966年の1月6日にこの島に到着して住み着いた時には、彼らは本当に喜んでくれました。最初の6週間位は「チョーザ」と呼ばれているわらぶき小屋で元パナマ共和国の集会に使われていた所に住んでいましたが、少したってコンクリート造りの二階貸

室に移りそこを住居兼集会所に使いました。カルティツピール島の人々は教会が開かれるのを長い間待ち望んでいたので私たちが着くや否や時間をおしむようにして一生懸命福音に耳をかたむけました。初めての聖餐会には6人の出席者がありました。次の週には82人、集会出席率は75%でした。またMIAは100%の出席率を示しました。私たち宣教師はいまだかつて一度もこちらから外に伝道にいったことはなく、逆に人々が私たちの所へやって来ました。礼拝堂は常に青年たちでいっぱいでした。そして彼らは「いったい、いつ私たちはバプテスマを受けられるのですか？」とたずねました。

実際にすべての人々が教会のことに関心を抱いており、私たちはすぐに伝道と聖霊の証詞によるみのりを見ることができるようになりました。1966年の2月4日に12人の青年のバプテスマが教会で行われました。それはパナマ共和国で行われた最初の「浸礼」でした。教会の教えはこれらの青年たちの生活や性格を変え彼らは自然に自分たちの家族に宣教師としての役割りを果たしていくようになり家族の者たちは間もなく私たち宣教師を招くようになりました。紹介のレッスンが終わり私たちは「こんどいつがよろしいですか」と聞いたところ、その家の女の人は「あなた方の御言葉には本当に興味を感じております、もっと教会のことについて学びたいのですが、もし御都合がよろしければ今夜にでもお待ちしておりますのでぜひまた来ていただけないものでしょうか？」と

ササーディ・ムラップ島の人々が390円5日以内で建てた礼拝堂は宣教師の住いつきで収容人員200名であった。



言いました。この言葉からいかに島の人々が福音に関心を持っているかがわかることと思います。またわずか2月と3月の間に51人にも及ぶ人々がバプテスマを受けたのであります。またクナの人々に伝わるたくさんの伝説の中には末日聖徒の信仰と共通するものがありました。インディアンに義の教えを伝えた彼らの偉大な予言者たちの話を聞きました。インディアンたちは良い霊と悪い霊のあることを信じておりました。また神様は私たち人間と同じような姿、形をされ予言者たちの言葉を忠実に守って生活してきたインディアンだけが再び神のもとへ帰って共に住むことができると信じていました。ある日私は同僚と一緒にインディアンの葬式に庄る機会があり、そこで今まで知らなかった大変めずらしいクナ人の信仰の一端を知ることができました。幼い子供が死亡して家族は昔からの習慣に従って川の近くの埋葬地に行き、ごはん「チチャ」というコーンスープを弔問に集って来た友人や親類に出すために準備しておりました。朝7時半頃私たちは埋葬地に着きました。墓をおくようにしてたくさんのわらぶきの仮小屋がありましたが私たちはすぐに死んだ小児の家族たちの集っている小屋を見つけることができました。弔問客を迎えるために男たちは小屋の掃除におくわらわでした。遺体は布でおおわれハンモックの中に安置されそれを囲むように女たちが座っておりました。母親はいつまでもいつまでも家族の者はこの死んだ子のことを思い続けるだろうという思いを歌にして聞かせておりました。

葬式の最初から私は彼らの態度に驚きというよりむしろショックをおぼえました。死んだ幼い少女の両親はもちろんのこと、その家族たちは悲しみにひたっているというよりむしろ幸福そうに見受けられました。みんながほくえんだり中には声を出して笑っている者さえおりました。父親は私たちにはこにこしながら挨拶をし、その顔には少しの悲しみさえ伺うことができませんでした。私たちが以前に出たことのある葬式とは全く異なるものでしたので好奇心から私は通訳のルイシト・ストセルに「いったい人間の死、特に幼い子供の死に対してインディアンはどのように信じているのか」と尋ねてみました。彼の答えによると「インディアンは子供が死んでも罪による罰は受けないと信じています。その理由は幼い子供には悪いことと良いことを判断できないからです。そのような者をどうして罰しなければならないのでありましょうか」これは本当に興味のある信仰でした。それで私たちはようやく死んだ幼い子の家族が喜びに満ちていた理由を理解することができました。死んだ子供が神様と共に住むということを知ってよこばずにいられる家族がどこにありましょうか？ 私は即座にモルモン経の中のニーファイとレーマンの争いでたくさんの愛する同胞を失いながらも喜びを感じていたニーファイのことを思い出しました。なぜならニーファイはこれらの戦死者たちがその正しい行いによってすぐ神のもの

とへとあげられることを知っていたからです。また子供たちには罪に対する責任がなく、イエス・キリストの贖いによって無条件に救われるというモルモンの教えを思い浮べました。このように古くからサン・ブラス・インディアンの中で信じられていたモルモンの教えと同じような信仰は私たちの教えが真実であるという証詞の大いなる助けとなりました。

インディアンの会員たちは本当に信仰深く、そしてらは知識にうえておりました。私たちの通訳をしているルシト・ストセルはその時19才で17才の時に改宗され、献身的に私たちの伝道の助けをしてくれました。彼の助けなくして私たちはとうてい責任をはたす事ができなかったでしょう。彼は謙遜になってもてるすべての能力と時間とそしてすばらしい証詞を神様のためにさくけてくれました。彼は私たちの第三の同僚のごとく働いてくれ、ほとんど全てのレッスンをスペイン語から原住民のことばに翻訳してくれました。私は彼ほど主を愛し教会のために何事もおしまず一生懸命働いてくれる青年を見たことはありません。彼の行いは末日聖徒の模範であり神の王国を築くために怠けている者にいったいどうしなければいけないかという証詞をあたえているように思います。彼はインディアンの青年たちがいったん彼らの生活に目的を見いだした時、いかにすばらしい有能な青年になれるかというほんの一例にすぎません。これにくらべユタの青年には墮落した者はいないでしょうか？ もちろんインディアンの青年たちにはそのような者は見当りません。インディアンたちは何百年もの間福音を失っておりましたので今再びこに受け入れることのできた福音を手離すことはないでしょう。またインディアンにとって過去は暗い夜で真理を見い出すことはできませんでしたが、今こに新しい時代の扉が開かれ完全な福音が回復され、輝ける約束の時が訪れようとしているであります。まだ60以上の島々には宣教師たちがおりません。しかし島々の人々は何かを待っているようでした。彼ら自身は何も望んでいないかも知れません。しかし確かに言葉では表わすことのできない何かがあることをはっきりと感じないではいられません。1966年の4月の末頃、アクアップ島またはロック島と呼ばれる所のサヒラがモルモンのことを聞いて宣教師たちに会いたがっていることを知りました。一週間後同僚のダレゴリー・ロビンソン長老と私はかれらを訪れました。ある日朝早く私たちはモーターカヌー（エンジン付カヌー）で島に向いました。私たちが着いた時にサヒラが迎えに来て「なぜ島に来たのか」と聞きました。私たちはあなたが来てほしいといったのを聞いてやって来たかと答えました。すると彼はそんなことをたのんだ覚えもなくきくと何かの間違いであると言いました。また事実アメリカ人やラテン人にはなんの関心も持っていないようでした。彼はいわゆる「文化」によりもたらされた変化を知っていましたが文明人とのつきあいには全く関心がないようでした。彼は「サヒラ



川の土手にあるクナの埋葬地，死者は雨をしのぐ小さな小屋のようなものの中に安置される。



クナの若い婦人，ショートヘアーは祭りの後のよそおいである。背後は人口約2,700人サン・ブラス諸島最大のウスツップ島。

小さな「チョーザ」の中で家族に福音を教える宣教師，多くの人々は教えに耳を傾け福音を受け入れた。



として生れ，サヒラであるかぎりいかなる外部の者にもわれわれの生活様式を変えるようなことは許さない」と言いました。私たちはもし彼らのじゃまになったらその失礼をわびてもし許されるなら私たちがこの島にきた目的を少し説明したいと話しました。すると彼は少し考えてから私たちがモルモンのことについて話すことを許してくださいました。約170名の人々が集会所に集まり，そこで私たちは話を始めました。始めに私たちは昔インディアンがすばらしい生活していた歴史について話しました。私たちは彼らの指導者たちが決して記録を残して置くことをせずそれらを次から次へと長い年代にわたって語り伝えてきたことを説明しました。インディアンが一生懸命これらのことを守り伝えて来たにもかゝらず，その教えはだんだんと変えて伝えられていきました。今日もおこのことは引き続き行っていますが，あなたの方の先祖のことに関しては間違って今日のサヒラに伝わっていることを話しました。そしてインディアンにモルモン経とインディアンとの関係について話しました。インディアンの古い予言者のこととクナの人々の習慣について話したところ，一人の村の代表者がびっくりしたようにして言いました。「この外国の若者は私たちインディアンの歴史について私たち自身の母よりよく知っている。彼の言っていることは真実に違いない。今日彼が私たちに話をしに来てくれたことを感謝します。」

私たちの話も終わりに近づいた時，私たちはサヒラにインディアンの歴史を書いてあるモルモン経がほしいかと尋ねてみました。彼は「今，あなたがたがお話しになったこの本をいたづけることは本当に嬉しく思います」と言いました。私たちのレッスンの前にはサヒラは外部の者を全然受け入れたことがありませんでしたが，私たちのレッスンが終わった時には，サヒラは今度いつ島に来てくれるかとたずねました。

私たちが島を離れる前にサヒラは讃美歌を聞かせてもらえないかとのみ，また彼自ら私たちの歌の指揮をしました。二日後にサヒラはカルティツピール島の友人宛に一通の手紙を書きました。それは私たちが次の週，彼を訪れることを決して忘れないよう，また村では私たちのために住む所を建てるように決めていると書かれてありました。島の酋長はそのことを全く知りませんでした。しかしサヒラは私たちを待っていました。そして主は私たちを彼の家まで導いて下さいました。私たちの成功により，もっと多くの島々に宣教師たちを送らなければならないということがよくわかりました。その意味でも私たちの努力によって，もっともっと多くの人々に福音を伝えなければいけないと感じました。慎重な計画と敬虔な祈りの後，私たちはアイリガンディ島というこの諸島で2番目に大きい島に伝道を開始することを決めました。フロイド・バーム長老が私の新しい同僚として到着したので2日の断食と祈りの後，私たちは島の代表者会議に私たちが

教会の支部をつくる許可を与えてくれるように申請しました。この申請はモルモンに対する一人の反対もなく100%無条件で認可されました。話がまとまり私たちは島に一週間後に支部を建てるために必要な物資を運ぶことになりました。

島に来てから7日後にサヒラは突然この島の人々はモルモン教会をもう必要としていませんと言いました。私たちは誰かが島の人々の中に私たちの教会の信用を失なわせることやモルモンはうそつきだと言いつつしていることを知りました。この策略は図にあたり私たちは完全に否定されてしまいました。私たちはいつかきっと島の人々が教会の真の姿を理解してくれることを願いつつ深い悲しみの内にこの島を離れました。この突然の出来事で住む所のあてもなくバーム長老と私は島を離なければならいりましたが、すぐササーディ・ムラツプ島という約1千人ぐらゐの人口でサン・プラス諸島の南にある大きな島に新しい場所を見つけることができました。

ウスツプ島を本拠地としてササーディ・ムラツプ島へ調査のために出かけました。驚ろくことには島の人々はすでに私たちが来ることをどこからか伝え聞いており、宣教師を置きたいという希望にも大変好意的でありました。島の指導者の心からの歓迎を受けてから私たちは支部を開くために必要な物をとりに島を離れました。再び島にもどり、すぐに2人のインディアンの先生と友だちになりました。かれらは私たちの仮住いとしてかれらの小屋の半分をあけてくれました。私たちの物資が到着すると部落の映画館を古い集会所の方へ移し仮集会所として利用できるようにしてくれました。島の男たちはさとうきびとやしの葉を使って私たちの住む所と礼拝堂を作ってくれました。完成するまで5日程かゝり教会はこの建築費として負担したのはたった材料代として390円たらずでありました。会員がまだ一人もいませんでしたけれど、定例集会は常に村の人々でいっぱいでした。日曜日の集会には約130人、コーラスの練習には150人そしてMIAには200人をこえる人々が集まりました。また初等教会に匹敵するようなグループの集会も持ち、60人の活発な婦人たちは自分たちで色々と自発的に働き、彼らは後の扶助協会の土台となりました。

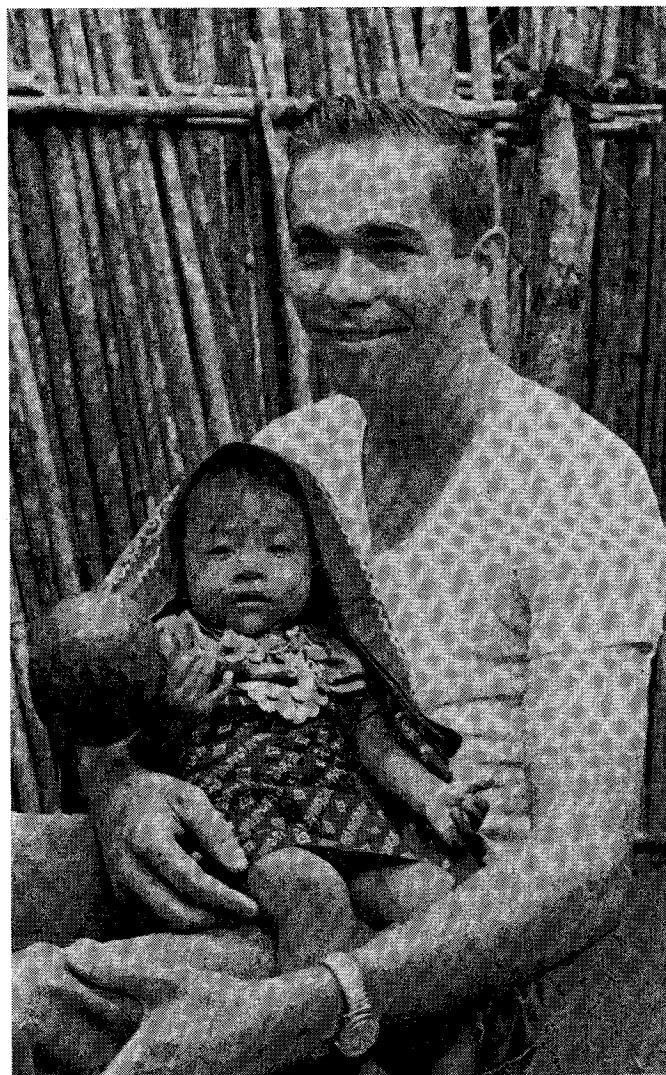
伝道の可能性は驚く程あり、専任通訳者がいなくても私たちはいくつかの家族とたくさんの家庭のスペイン語のわかる若い家長たちに福音を教えることができました。教会の将来性は非常に明るく、その進歩発展には大いなる希望を抱かせるものがありました。

私たちの伝道の仕事もやっと軌道にのりちょうど最高潮に達した頃、まったく予期もしないようなインディアンの習慣上の問題におつかり悲しい結果になってしまいました。何世紀にもわたりクナの人々の中にはインナまたはチチャ祭と呼ばれる成人式(成人の日)にあたるような祭りが行われてきま



クナの人々はよくほほえみを浮べる

クナの幼女を抱く筆者(リン・ラウンディ長老)



した。チチャというのはトーキビと砂糖キビのジュースによって作られ、それを数日置いて発酵させたもので、祭日の最中に少女たちは成人としての祝いに飲んで酔いしれるのです。この飲物が「智恵の言葉」の誠命にそわないということを知



「魚の日」にココナッツと魚を交換するサン・プラスの婦人たち

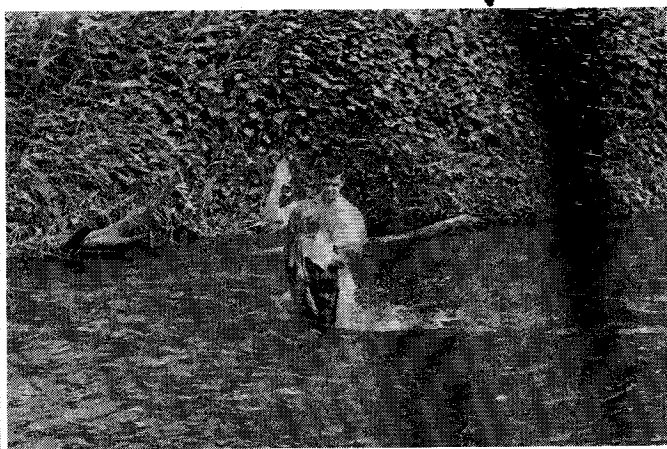
りながらも私たちはあえて人々にこの習慣をやめるように警告しませんでした。少ない人数ではありましたが教会に興味をいだいている人々に教義を伝えました。この頃、私たちは強く主の誠命を村全体に伝えなければならないと感じました。この聖霊の導きがあって私たちの意見が当然受け入れられないということを十分知りながらも断食と祈りをして村の代表者会議へ行きました。

同僚も私も現住民の言葉を流暢に話すことはできませんでしたが、私たちは村民の前に立って一時間以上にわたって説明しました。この時聖霊の導きがそこに宿っておりましたが島の指導者たちにはそのかすかな導きをも感じることができなかったようでした。翌日部落より宣教師たちを追放しようという気運が起り、結局昔からのインディアンの習慣とかれらの古い宗教を守ろうとする感情により私たちが智恵の言葉に対する教えを取りやめるか、さもなければこの島を出て行けという島の指導者の最後通告を受けるはめになってしまいました。

私たちはこの教会の根本的教義を否定することができないというこのたった一つの理由によって島をはなれなければなりません。次の晩、私たちは村の指導者の集りによばれ、考えを変える「最後の機会」を与えられましたが、それをことわったのでサヒラは次の日の昼までに島を立ち去るように言いました。島の人々に対する愛着が日々強くなり、また特



ササーデイ・ムラップ島生まれのクナの酋長サヒラ彼の名はマニビグディグナで「まじない師」である。



クナの若い女性にバプテスマを施すグレゴリー・ロビンソン長老

に島の多くの人々が必ずしも指導者の決断に同意していないことを知るにつれてこの出来事は私たちを悲しみのどん底に突き落とし、また私たちは自分たちの手廻り品を整理した後、どうして私たちが島をはなれなければいけないかとたくさんの村の若者や老人たちが悲しみ、涙を流して見送る中を島より離れました。私たちも良心の苛責に深く心が痛みました。そして一人の信仰深い婦人が抱いていたかわいい少女の手を取って、私たちに別れの握手を求めてきた時私、たちの目も悲しみの涙でいっぱいになり、遠く島より離れるまでとまりませんでした。私たちはこの小さな珊瑚礁の島の人々を愛していましたので島をはなれてからも人々のためによく祈りをしていました。

島の人々の現在の気持は、宣教師たちに帰って来てもらいたくそのためにもし必要なら喜んで島の指導者を変えても良いと考えているようであり、私たちのお祈りも決して無駄ではないと思いました。この島に再び福音が宣べ伝えられることと、サン・プラス海岸の全ての島々にそれらを広めることが私たちの願いでした。神はこの選ばれた人々に福音を準備されており、確かな理由によって今まで彼らに福音が宣べ伝えられなかったのであります。そして、今日その理由が明らかにされたのであります。勿論今までも色々問題がありましたが、これからもサタンが必死に彼の王国を築こうとするので常に問題がおきることでしょう。しかしサタンの努力も神によって無駄なものになってきたし、これからもそうでありましょう。私たちがこれからぶつかる問題はサタンが地獄で登らなければならないけわしい山にくだれば、蟻の丘をのぼるようなものにすぎないでしょう。

ブリワートン伝道部長は私たちの直面した問題と伝道閉鎖をきいた時「サタンや、またはいかなる反抗者も私たちの伝道をやめさせることはできない。今まで私たちが直面した問題は、むしろ姿を変えた祝福であった。」と語りました。そして彼は次のような証詞で話を結びました。「主はクナインディアンに福音を回復したまい、『レーマン人の時』が訪れました。」

開拓者



記念日

モルモンの開拓者の先発隊は約束の地への脱出が終っていました。その指導者であるブリガム・ヤング大管長や多くの人々は家族を迎えるために秋になる前に東の方に出かけていて、まだその谷には戻っていなかったのです。1848年の春も間もなく終りを告げる頃、グレート・ソルト・レーク市は400戸の丸太とアドービレンガ（天日で乾かしたレンガ）で作った小屋だけでしたし、その内部は「古めかしい砦」のようでした。耕されている土地は、2,400町歩を越していました。1,700名の人々が、その谷を「砂漠にバラを咲かせるように」美しくするためにあらゆる努力をしていました。

その時丘の方から真黒なかたまり、すなわち「いなご」の大群が押し寄せてきたのです。このことは聖徒を暗黒と絶望のどん底に突落すかのようでした。なぜなら「いなご」の大群が小麦の収穫を前にして一瞬の内に葉のわずかに青いところまでも喰い荒してしまうことが明らかでした。

直ちに働ける人々は皆畑に呼び集められ、「いなご」の大群から畑を守るため、水ぜめ、火ぜめ、棒で追払うこと…等あらゆる方法を試みました。しかし全く効果がありませんでした。その上、昨年わけられたわずかばかりの食料もほとんど底をついてきていましたし、後に続いて数千名の聖徒たちがグレート・ソルト・レークの谷への途上にあることも知っていました。全ての人にとって今まさに収穫を前にして喰い荒されようとしている穀物が命の綱だったのです。

直ぐさま指導者たちは畑でどうしたら良いか討議しました「スミス兄弟、ブリガム兄弟に使者を送ってここに人々を連れてこないようにして下さい、そうしないと多くの人が戻って来たら皆が餓死してしまうでしょう」と第二副ステーキ部長であるジョン・ヤングが発言しました。

予言者ジョセフの叔父さんで、ソルト・レーク・ステーキ部長であるジョン・スミスはしばらく考え、「ジョン・ヤング兄弟、主は私たちをこの地に導かれました、決して私たちを餓死させるために導かれたのではないのです」と答えたのです。

あらゆる努力が失敗に終わった時、男も女も子供たちも、始

めから彼らの心の中にあった祈りを捧げるために、ひざまずきました。すると突然空に雲が——真白な雲が現われたのです。人々はまた危害を加えるものだろうかと、凝視し、いぶかりました。それは「かもめ」の群だったのです。そして「かもめ」の群が畑に舞降りた時目の良い人々は「かもめ」たちが作物の柔かい葉ではなく、「いなご」を一杯喰っているのに気がつきました。そして腹が一杯になると飛び去り、吐き出し、他の「いなご」を退治するため畑にとって帰ってきたのです。「これは正に救いでした！」

この近代の奇蹟の日付は正確に記されていませんが、二、三の歴史家は1948年5月、また他の人は6月、ある人は5月と6月の間であるといいますが、1848年6月9日付でソルト・レークステーキ部長会は西に向っていたブリガム・ヤング大管長と十二使徒会に手紙を送って、その中に「…大量の春の穀物が収穫出来そうです。そして2、3日前までは本当に良い見込をしていました。「いなご」の大群は小麦やとうもろこしに相当な損害を与え、落胆した人々もいますが、それでもかなり大量の穀物が荒されないで豊富に残っています…。「かもめ」の群は湖の方からやって来て、飛び去った時には「いなご」の大群は一掃されていました。それは実に主の御手が私たちの上にあるかのようでした」と書かれています。（教会史誌 1948年6月9日）

今では「かもめ」はユタ州の州鳥となっています。

ブリガム・ヤング大管長の孫である、マオニリー・M・ヤングの作である「かもめ」の記念碑が1913年10月1日テンプル・スクエアで除幕されました。重さが20トンの花崗岩で作られた基礎は泉から引かれた小さな堀に囲まれています。約4.5メートルの円柱の上には約222キロもある丸い花崗岩があり、羽の巾が2.5メートルもあるブロンズで作られた二羽の「かもめ」の像がのっています。

その記念碑の基礎の三つの面には「かもめ」と「いなご」の話が簡単に浮彫りされていて、東側の面には開拓者到着の模様が、南側には「いなご」の襲撃の状態があらわされています。B・H・ロバーツは「開拓者といなごの大群との戦いは終わった。あらゆる工夫とあらゆる力をこの戦いのために費やしてしまった。（地上にうつる希望を失い、うなだれた影を見るときわかるように）彼は完全に打ちのめされ、鎌をとる力さえもなく手を下げ、頭をたれている。絶望だけが開拓者を囲み、あざけっているかのように見える。しかしこの面に描かれている女性の姿はその開拓者と異っている。手には子供を抱えて将来に対する責任（すなわちきたるべき子孫の生活）の鼓動を感じ取っているかのようである」と説明しています。（教会略史 第3巻 354頁）

第三面には開拓者たちの最初の収穫の模様が記され、第四面には

「かもめ」の記念碑

モルモンの開拓者にそそがれた神の慈愛の偉大な記念として建てたるものなりと記されています。

以上のことは「かもめ」の群と「いなご」の大群についての言伝えです。このことが末日聖徒の心の中に、いつもあかしく輝いていますように。

尊 敬

管理監督

ジョン H. ヴェンデンバーグ

救

い主が地球上で導きと教えを施され、らい病人、不具者、賢人などと交わっておられた時、また父なる神の御前に神聖な祈りを捧げておられた時、他の人々に深い「尊敬」の気持をお持ちになっておられたことが感じられます。試練を受けておられる間でさえも、愛する人たちから裏切られた時も、奉仕をするために訪れた人々にあざけられ、のしられた時も、一度として無礼な言葉をお使いになりませんでした。暴徒が「はりつけにしろ」「はりつけだ」と叫んだ時でさえも、また耐えられない程の苦しみを受けて処刑されるためにゴルゴタの丘に引きたてられた時でさえも、その思いは母親の安全と愛する人々に向けられていました。そして救い主の手にくぎを打ち込む者たちにさえも、一言も軽べつした言葉を口から出されませんでした。

青年男女の皆さん、このことが皆さんと一緒に考えたい「尊敬」に関する偉大な本質なのです。このことは若い人々にとってよく理解するには少し難かしい美德であるかもしれませんが、「尊敬」は完成、尊敬、偉大さの本質なのです。

同時に「尊敬」は私たちの生活のいろいろな場面で適応できますから、日々の生活で大切な二、三の場面でどのように利用できるか一緒に考えてみましょう。

両親に対する尊敬

アダム時代からモーセの時代、また私たちの時代にいたるまで両親を敬うことは青年の責任であります。偉大な人々は常に両親を敬まっています。あらゆる者の中で最も偉大なる、主イエス・キリストは十字架上にかけられた時でさえも母の幸福を願っていらっしゃいました。両親を敬うことこそ真の男性、真の女性としての人格の基いなのです。

お父さんの畑を誰一人として通さないように見張りをたのまれたイギリスの少年についての話をしましょう。数人の狩

人たちがやって来て門を開くように命じた時、その少年はかろうじてその責任を遂行していました。そしてお父さんの命令に従っているのに誰も通すことはできない旨を狩人たちに話しました。ついにその内の一人がやって来て「坊や、君は私を知らないのかね、私はウエリントン公爵だよ、御存知の通り命令を無視されたことはないのだよ、さあその門を開けたまえ」と命令するような口調で言いました。すると少年は帽子をちょっと上げて「ウエリントン公爵ならなおさらです。僕はその門を開けるわけには行きません。誰であってもお父さんの特別な許可がなければ通すことはできないのです」と断固として答えました。

すると公爵は帽子をとって、「私は命令を無視するような衝動にも誘惑にも負けない人間や少年を尊敬します。そのように命令に忠実な兵隊の一部隊でも持っていたら、フランスばかりでなく全世界をも征服できるだろう」と言いました。

両親に従うことは高い尊敬の気持のあらわれなのです。敬いの気持を伝えるのは、しばしば述べられているように些細なことによるのです。青年男女の皆さんが、あなたの持っている多くのものや人格が、御両親のおかげであることを知るのとは大切なことです。人生においてあなたの尊敬を受けるべき最もふさわしい人は両親なのです。

私たちは時々、自分たちはもっと尊ばれることを期待しているのにと若い人々が不平を言うのを聞くことがあります。

しかしこの口実には原因がないわけではありません。今なお人間関係の根本的な法則は「尊敬が尊敬を生じる」ということなのです。あなたは両親や他の人々を敬い、尊んだ時にあなた自身が尊敬されていることに気づくでしょう。

最近年のせいで腰が曲り、毛髪が白くなったある男の人が一つの出来事を話してくれました。その老人が青年の時に、ある晩父親の農場の牧草畑から帰ってくるところでした。すると父親が町に使いに行ってもらいたいとやってきた時には、彼は夜明けからずっと働きつづけていたのでした。その年配の人は次のように話を続けました。

「私は疲れて、ほこりにまみれその上空腹でしたし、町まで3.2キロもありましたので夕食をしたいと思っていました。父が一日中の長い労働のすぐ後に使いに行くように言ったことに腹をたてていましたので、私は最初その使いを断わり荒々しく振舞うような衝動にかられたのです。

しかしもし私が断わったら、父が自分で行くことはわかっていましたので、『お父さん、もちろん僕が行きますよ』と牧童の一人に草刈りがまをわたしながら、心から言いました。『ありがとう、ジム、私が行こうと思っていたのだが、

今日はどうも気分がすぐれないだよ』と父が言いました。父は町に行く道まで一緒に歩き私を町に行かせる時に私の腕に手をかけて、「ありがとう、ジム、お前はいつも私にとって、申し分のない子だったよ」と父が言いました。私は町に大急ぎで行って戻ってきました。家に近づくにつれて、何か容易ならざることが起っているのがわかりました。牧場の働き手がみな仕事をしないで戸口の囲りに集っていたのです。近づいて行くと、その中の一人が声をふるわせ、涙を流しながら私のところに走り寄り『あなたのお父さんが、家に帰ってきたとたんに倒れ、お亡くなりになりました。お父さんは最後まであなたのことを話しておられました』と伝えました。私はもはや年老いていますが、父の最後の『お前はいつも私にとって申し分のない子だったよ』という言葉以来過ごしてきたあらゆる年月を神様に幾度も繰返して感謝しました。

あなたの両親に尊敬の念を抱くことこそ高潔さにいたる最初の段階なのです。

他人に対する尊敬

尊敬とは時々「普通の礼儀」といわれているものの中に見出す状態です。「普通の礼儀」が普通であるはずなのに、さっぱりそうでないところに現代の悲劇があります。

この尊敬や思いやりの作法は大変重要で根本的なことなのです。「全ての門戸が礼儀のために開かれている」とトーマス・フラーが言いましたし、テニソンも「偉い人であればある程、ますます礼儀正しい」と述べました。

礼儀は真の男らしさや女らしさとして必要な敬う気持ちをあらわす一つの作法なのです。礼儀は自信と自尊をもたらします。この考えに関し、E. S. マーチンは「自己を敬うことはあらゆる良い作法の根底であり、良い作法とは修養であり、思いやりであり、他人の権利を尊ぶことであり、慰め、同情を表わすことなのである」と語りました。

若い人々よ、あらゆる行動に礼儀正しく、思いやりがあるか、すなわち自分の内から生じてくる尊敬の念（自己を尊ぶこと）があるか自分自身を問うてみたり、見つめてみたりすることは大切なことなのです。

「より偉大な人間となるのに礼儀以外には何もない」とキケロは言っています。

法律に対する尊敬

法律を敬って従い、俗世の権威を敬うことは私たちの信仰の基本でもあります。予言者ジョセフ・スミスは「我等は、王大統領、統治者、長官に従うべきを信じた法律を守り、敬い、支うべきを信ず」と表明しました。このことは今日私たちの社会において、あるものによって愚弄され、あざ笑われ

ていることなのです。

神聖な権威に対する尊敬

使徒パウロはその職に召される前に権威を敬い尊ぶことを教えられました。使徒行伝にはダマスコへ迫害に行くサウロの旅について語られています。しかしその旅行は主の御声がサウロに降った時にさえぎられました。「サウロ、サウロ、なぜ私を迫害するのか」、そこでサウロは「主よ私になにをせよと、おっしゃるのですか」とたずねました。主はサウロに「さあ立って、町に入って行きなさい、そうしたら、そこであなたのなすべきことが告げられるだろう」といわれました。（使徒行伝 9:4,6）

さて、主はサウロが何をしたらよいか数語で語ることもおできになりましたが主はサウロの性格をよく御存知でしたし、後の事実が示すように教会の指導者を認め、敬うことはサウロにとって難かしいことを知っておられました。主は博学なサウロをダマスコの教会の謙遜な働き手であり、まさにサウロが逮捕するつもりであったアナニアのところへ、イエス・キリストの福音を学ぶためにつかわし、教会の指導者を敬うことが極めて重要なことをサウロに銘記させるためにあえてそうなさったのです。

指導者を尊敬することは私たちの教義の根本であります、教義と聖約の中で主は自ら宣言なされた時にこの点を強調されています。

「主、われ言いたることは、われ言いたるなり。われ言い逃れせず。天地は過ぎ行くとも、わが言は過ぎ行くことなくして成就すべし。わが声にて言われるも、僕らの声にて言われるもみな一つなり。」（教義と聖約 1:38）

もしこの主の御言葉に含まれている意味を理解するなら、あなたたちアロン神権をお持ちの若い男性や、あなたたち若い女性の皆さんに素晴らしい祝福となるでしょう。予言者を、あなたたちのステーク部長（伝道部長、地方部長）を、そしてあなたたちの監督（支部長）をごらんください、その人々の権威を尊敬し、その勧告に従いましょう。

今まで述べてきたように「敬い尊ぶ」ことはあらゆるものの根本なのです。今日の社会で、実にしばしば、青年たちが本当の成長をしていないので不安になります。そして自分自身のわがまを助長するために尊敬しないようになり、その上ほとんどの人はそれに気付かずに、「美德に対する自分たちの正しい歩むべき道にそむいて」います。マッケイ大管長の語られた言葉を理解することによって結論することができます。「微力な人々でも成功することはできるが、もし『尊敬の念』がなかったら決して偉大にはなり得ない」。



婦人の輝かしい目的

十二使徒評議員会々員

ハロルド B. リー長老

私は姉妹のみなさんの依頼により、「福音中心のホーム・ティーチングにおける母親の立場」についてお話いたします。

「始めにテレビとラジオの父と言われているデビッド・サーノフ博士の言葉を引用します。

「私が知っている最も幸福な人とは、この世的に偉大な業績や富を得た人ではなく、喜びに満ちた結婚をし、健康であることに感謝し、良い家庭生活を営んでいるごく単純素朴な人々であります。」

(Wisdom magazine 22号)

子供たちを教えなさい

1877年、ブリガム・ヤング大管長がなくなられる丁度6週間前のことでした。ブリガム・ヤング大管長と副管長ジョン・W・ヤングとダニエル・H・ウェルズが教会に宛てた書簡の中で、大管長はいくつかの非常に重要な事柄を話されました。

「われわれにゆだねられている多くの責任の中で、子供の教育程絶えず、慎重な配慮をすべきものはない。子供は非常に多いが、よく教え導びくなら、地上に住む人々にとって最も大きな祝福となるに違いない。両親は毎日とはいわないがわずかで時間のとれる限り、自分の家族の者を集め、子供たちと交わり、子供たちの友だちや、言葉や行動などについてよく尋ねてやり、福音の原則を教えるべきである。両親は子供たちを定期的にきちんと学校や日曜学校へ送り出し、可能なあらゆる設備を備えて教育を施すべきである。特に福音の原則と教会の歴史に関して健全な知識を得させるべきである。」

ジョセフ・F・スミス大管長は教義と聖約68章の中の、子供たちを教育せよとの主の要請を引用して、次のように言っております。

「しかし、かりにも両親が子供を教育することを怠り、子供たちが墮落し、真理にそむいたとしたら、主は『その罪両親の頭上にあらん』と言われた。子供たちの失敗や背教、無知の責任は両親にかかるであろう。私はこの点につき反省してみて、次の結論に達した。……私は自分の責任を怠って、子供を無知にさせておきながら、自分だけは神の王国において昇栄と栄光にあずかり得るなどとは信じられない。

私は子供たちに説き続け、子供たちがこの福音に対し真実であり忠実であるようにもてる力を使って最善を尽すのである。なぜならば子供たちなしでは天においても私の家族は完全ではないと感ずるからである。」(大会報告 1898年4月)

母親の責任

家庭で福音を教えることの重要性は、教義と聖約第1章に述べられています。特に家庭に応用するようにと、回復された福音の四つ

の重要な目的が次のように述べられています。

1 信仰もまた世に高まり…彼ら誤りたらば明らかにさるるを得。
(教義と聖約1:21, 25)

2 知恵を求めたらば教えを授けらるるを得。(同上1:27)

3 罪を犯したらば悔い改むるために懲しめらるるを得。

(同上1:27)

4 へり下りたらば強くせられて天の祝福を受け、また、折々知識を与えらるるを得るためなり。(同上1:28)

「家庭を中心とする福音のプログラム」に必要な「母親の責任」については、福音の中に明確に教えられております。私が考えている母親の基本的な責任の四つか五つの概念を述べてみます。

先ず私がお母様方に申し上げたいことは、十代の故に子供が多少わがままであったり、少々しゃくにさわることを言ったからといって、息子や娘をあきらめてはいけません。私はむしろそのような息子や娘をたのもしく思います。また自主性が欠けているとか、家庭のきまりを無視するからといって、息子や娘をあきらめてはいけません。落胆するような無責任なことを行い、示したとしてもがっかりしないようにしてください。全てのことを知ってください。傲慢で全く分別のない態度は彼や彼女にとっては、ただ若い人達を指導する方法を失った旧式の考えをもつ人の余計なお節介にすぎません。

知っているというだけでは充分ではありません。私たちは応用しなくてはならないのです。また望んでいるだけでは充分ではありません。実行しなくてはならないのです。

「無知なる行いほどおそろしきものはない。愚者、賢者ともに害なし、危険なるものそれは半ば愚者にして、半ば賢者なり。」(ゲーテ)

ある大学の教授は次の言葉を引用して述べておられます。

「神が若人を美しく創造されたことは何とすばらしいことではないか。そうでないとしたら、この世において、私たちはどうして若人の愚にもつかない考えに我慢がきょうか。」

私たちは北英国伝道部に伝道している孫がおります。彼の両親の忠告が今、彼にとってすばらしい力になってきているという興味ある手紙を書くまでは、伝道に余り熱心ではなかったのです。両親の忠告は19年間も書棚にあった1冊の本のようなものであり、今彼はその本を取り出して読み始めたのです。それはあなたの息子であり娘であります。時として、あなたは子供たちがあなたの忠告を聞いていないと思うかも知れません。子供たちも、自分たちは両親の忠告を聞いていないと思っているかも知れません、しかし子供たちはその本を最も必要とした時に、取り出して読み始めるのでありましょう。

悪の力

両親が自分の子供たちにできるだけのことを教えてしまうと、そこにはある力が作用し始めます。そのような力はモーサヤの息子である若いアルマにも働き、祖先が築き上げた御業を破壊しようとしていました。覚えておいででしょうか。天使が遣わされ、その天使はアルマをたたき、丁度彼の目と目の間を打ったのです。アルマは三日三晩死んだ者のようになって、地に横たわっていたと思いますが、天使はアルマに次のように言いました。

「……見よ、主はすでにその聖徒らの祈りと神の僕である汝の父アルマの祈りを聞きとどけたもうた、汝の父は汝に真理を知らせようとして堅い信仰をもって汝のために祈った。それであるから、神の僕たちの祈りがそれぞれの信仰に応じて聞きとどけられるよう、それは神の権能と威力とを汝に認めさせるために来たのである。」

(モーサヤ 27:14)

ニーファイの場合も同様であり不信仰な彼の兄弟たちは、ニーファイを亡ぼそうとしました。そこで天使は彼らに言いました。

「あなたたちは悪事をするのは早いけれども、あなたたちの神である主を思い起すのはおそい、あなたたちはこれまでに一人の天使を見、天使はまたあなたたちに言葉をかけた。まことにあなたたちに言葉をかけた。まことにあなたたちはその御声を時々聞いている。その時それは静かな細い声で話したもうが、あなたたちはなんらの感じもなかったのです。その御声を感ずることができなかった。それでそれは雷のような声であなたたちに語りたまい、その声はあたかも引き裂かんばかりに大地をゆり動かした。」

(I ニーファイ 17:45)

更に続けて述べています。

「……私は『全能の神の御名によって命ずる、私に手を触れるな。私は身も燃えんばかりに神の力に満たされているから私に手をかける者は誰でも乾いた芦のように枯れてしまうからである。また神がかれを打ちたもうから、神の力の前には有れども無きがごとくになるであらう。』……。」(同上17:48)

父親を家の頭としなさい

母親の第二の責任は父親を家の頭としてたてることであります。これは「問題の要因の多くは義務を怠っている家庭に根ざしている」と経験を通して語られた有名な判事の証言であります。母親は父親を家の頭としてどのようにたてることができるでしょうか。

「子供たちの中には母親の愛情が足りないと、すぐ横道にそれてしまう者もあるが、父親の場合は違うと言いました。そこで先ず第一になすべきことは、父親を家の頭とすることです。かりに父親にその資格がないとしても、彼を頭としてたてるべきであります。そしてもし彼が家長としての責任をよく果たした時には、感謝の気持を表わし、怒った時には知らないふりをしていてください、しかし決してあなたが彼を理解していないのだなどと感じさせてはなりません。父親を家の頭としてたててください。」

ブリガム・ヤング大管長は次のように述べています。

「御婦人の皆さん、あなた方の夫があなたに対し、しばしば憤慨することや我慢できないことなどをしたことがあったらと思う。だがそれは正当なことだったのかも知れない。彼は常にあなたをいたわらねばならないのであるが、時としてそうではない。しかしあなたの夫があなたに対して親切であって、しかも正しくもてなしてくれるなら、彼らと共にあり、あなたもそうでありなさい。われわれは自分の体を横たえて、この世を去る時、この世で持っていた障害や不完全さはそのままよみがえるのである。すなわちこの世にあって、かりに妻が夫を愛することができないとすれば、彼女は次の世でも愛することはできない。だが第一の復活または日の光栄の復活の祝福にあずかる者はその限りにあらずして、清く、かつ完全に体は完き者となるのである。この言い尽くせぬ名譽に達すべきすべての男女は、神の御座にうたう天使のように美わしくなるのである。」(説教集10巻24ページ 英文)

さて姉妹の皆さん、あなたの夫がこの世においてよく成長できるように常に助け励ましてください。そして次の世にあっても主が共にましますように祈ります。

夫が神権を敬うように助ける

夫が神権を敬うように助けを与えることは母親の責任でもありません。初期の扶助協会にあてた予言者ジョセフ・スミスの声明の一部を引用します。

あなたの夫はあなたと子供にとって、永遠にわたる日の栄の家庭に通ずる扉の鍵をもっているのである。夫が神権を敬い正しく行使しようとしなければ、その家族の者にわずらいを受けることになりましょう。そしてそれは日の栄の家庭に入るさまたげとなるでしょう。かりにあなたがリードしなくてはならないとしても家族の祈りをしてください。もしできたら夫がリードするかどうかを確かめてみてください。彼が神権会に出席するかどうかをみてください。ホームティーチングをするように召されているなら、その責任をよく果たしているかどうかをみてください。妻はできるだけのことをして夫を助けてあげてください。夫が神権を正しく行使することができるよう、親切にしてあげ、忍耐し助けてあげてください。そうすることによってあなたとあなたの夫と子供たちはいつの日か神殿に行くことができるでしょう。

神権の助けを求めなさい

次にあなたが克服できないと思われる問題は集会において「神権の助けを求めなさい」と申し上げたいと思います。何人かの人々は監督は自分にとって親しすぎるとか、余り若すぎて未経験すぎるとか、自分の秘密を守ってくれないのではないかと思い、つい避けてしまう。監督は神権のすべての力はもちろん、同様に補助組織をも動かすためにその職に任せられております。もしわれわれが問題を真に解決しようとするならば、監督を通じ、スティーキ部長と連絡をとらねばなりません。数年前、私は結婚を執行した一人の女性から手紙を受け取りました。この結婚には問題が生じていたのです。私は誤った神殿結婚の例がここにもあるのかと思いました。

「間もなく私たちには問題が起り始めました。私たちはその問題に気づき始めてから、解決しようと試みました。だが解決できませんでした。教会では活発でありましたし、集会にも出席しておりました。しかも祈り、什分の一を納め、定期的に神殿にも行きました。私たちは互に愛し合い、自分たちの結婚のためには少なくともそのように求め合っていたのです、やがて子供にも恵まれ二人共大喜びしていたにもかかわらず、問題は解決できないと思われるほど悪化して行きました。それから約一年後、私たちはもうこのような状態では結婚生活は続けて行けないと思い、私たちの友人でもある監督を訪ね、問題について話し合いました。私たちはほんの少し話し合っただけでした。監督は「私も結婚後間もなく妻との間に問題が生じました。」と言い、私たちにとって信じられないようなことを言いながらも励まして下さいました。その他は余り語りませんでした。しかし私たちは監督にお話したことによって問題を解決することができたのです。なぜだかわかりますか。確かに私たちが監督の部屋を去る時には、ある程度、解決の糸口に達してきていることがわかりました。そして今では次第により方向にむかってきています。なぜかまた何が起ったのかを説明することはできません。しかし私たちは努力してきました。それ以来良い方に向ってきているのです。」

さて、なぜ彼らの問題を解決することができたかと申しますと、この二人は監督の指示に従ったからであります。

家庭の夕べ

ある家庭のお母さんに、家庭の夕べをしているかどうか尋ねてみると、次のように言っておりました。

「私は重い病気にかかっていますが、次に述べる事がうぬぼれに聞えないように望んでいます。この度、初めて私が子供たちにとっていかに重要であるかということに認識いたしました。私は床についているものですから、子供たちに必要なものは何一つしてあげることができません。もちろん、天父の助けがあるということは知っておりますが、この世で私が子供たちに影響を与えることは終わってしまったのです。私にとりましては一週一月一年と、どんなにか時間がほしく、かつ貴重であったことでしょうか。以来私は時間をどのように使ったらよいかということに関していろいろ考え、決めてきました。このことは私の要求を満たしました。その一つは家庭の夕べに、子供たちに本を読んであげたり、話をしてあげたりすることでした。充分とは言えませんが、普通は一週間のうち五日間、一時間ずつ一緒にすごすことにしています。その他モルモン經を読んであげたりします。これも子供たちはとても楽しんでいるようです。このようにして夕べをすごすことは始めは私自身の考えだったのですが、今では私のものだけでなく、子供たちのものとなってきております。8歳になる子が祈りの中で、記録を保存した予言者に感謝をしました。また5歳の息子もレーマンとレミュエルにより殺されようとした時に信仰によって安全を求めて、荒野の中に逃げ去ったあのニーファイに感謝しているのを耳にしたとき、私はこ

の「夕べの集い」が子供たちにとってまさしく意義ある貴重なものだと思います。私たちはこの経験を通して、子供たちの愛を増し、彼らが福音と、彼らを創造し給うた天父への理解力とを増すようにするには、どのような時でも、私たちは機会を得ているのだということを教えられました。私たち家族の「きずな」はこの最もすばらしい方法によって強められたのであります。こういう訳で、家庭の夕べは、私たちにとって極めて重要なのであります。」

全教会のお母様方、教会では全教会員家族のため、かって家庭で家族の人に教えるために父親や母親によって準備されたものよりもずっとすばらしいレッスンを準備いたしました。

教会ではすべての家族にゆきわたるように、65万部の資料を印刷しました。ですから「家庭の夕べ」の手引を勉強していない家庭ではすばらしい機会を失っていることになります。

お母様方、家庭の中心に留っててください。結局、最後にお母さんを家庭の中心におきなさいと申し上げます。今日、家庭を破壊しようとする大きな「危険」があります。それは家庭の者が家に入ったり出たりすることができるようにお母さんが常に家にいるということでないがしろにしてしまうような誘惑なのです。あるお母さん方は家計を助けるために働かなければならないかも知れません。そのことは認識はしておりますが、ここにお集りの扶助協会の会長の方々と監督は可能なら仕事の性質や時間を考慮してあげて、小さな子供たちのいる母親は極力子供たちと一緒にいれるよう採り計らってあげるべきであります。

これらのことはすべて家庭に関する扶助協会の仕事の責任の中に含まれていることであります。

家庭——良き婦人により守られる家

家庭における母親の責任のいくつかの簡単な提案ではございましたが、「家庭」という言葉を定義すれば「家庭」とは良き婦人により守られる家であると思います。神はこの教会の母親に、充分な働きができるように力をお与えになりました。あなたは次の言葉を覚えていらっしゃいますか。

「われはただの人にして、すべてはなし得ざらんと、何かをなし得る人なれば、御神の恵みによりてなさん。」

ある人はこれに次のような言葉をつけ加えました。

「母たるものよ。己が与えねばならぬことを与えよ。その時にただ、考えるだけよりも与える方がましである。」

あなたがそれをなし得るように、そして人の母として、すなわちあなたの息子や娘たちが、あなたの影響をすばやく取り入れる時、それが彼らにとって大きな力となって行くように、また家庭における創造者としてのあなたのすばらしい機会にめざめるように、神の祝福がありますように祈っております。

みなさんが強い土台を築き上げ、ここにお集りのみなさんの影響を受けて、他の母親たちが同様にたくさんのお話を学ぶことができるように心より祈り、主の御名によってお話いたします。

アーメン

日曜学校

聖典を用いなさい

ローエル L. ベニオン

あなたがたは、聖書の中に永遠の命があると思って調べているが、この聖書は、わたしについてあかしをするものである。」(ヨハネ 5:39)

イエスのこれらの言葉は、テモテへの手紙においても同様に、パウロの忠告によって補足されている。

「しかし、あなたは、自分が学んで確信しているところに、いつもとどまっていなさい。あなたは、それをだれから学んだか知っており、また幼い時から、聖書に親しみ、それがキリスト・イエスに対する信仰によって救に至る知恵を、あなたに与える書物であることを知っている。聖書は、すべて神の靈感を受けて書かれたものであって、人を教え、戒め、正しくし、義に導くのに有益である。それによって、神の人が、あらゆる良いわざに対して十分な準備ができて、完全にととのえられた者になるのである。」(Ⅱテモテ 3:14~17)

なぜ教師が生徒に聖典を読むようにすすめるべきであるかについては、正しい理由があります。聖典は、モルモン教の教義をよく説明できる唯一の権威ある書物だからです。これ以外に、教会によって正当なもしくは、標準的な書物として、受け入れられたものはありません。

聖典は、アモス、イザヤ、エレミヤ、パウロ、アルマ、モルモン、及び予言者ジョセフ・スミスのような偉大な神のしもべによって書かれました。それらは、われわれに確信と権威とをもって卒直に語りかけます。聖典だけが、生命に関する事、神の御子や偉大なる教師の教えを扱っています。聖典は救いと生命の原則とをいろいろな形で豊かに教えてくれます。

聖典は、生きており、興味あるものです。すぐれた記述による心を動かす劇的な挿話、物語、たとえ話、歌、格言、訓戒、歴史的な事件、恋愛事件、戦争と平和、憎しみと愛、陰謀、気高い理想等で、満ち満ちております。あらゆる形の人間の弱さや強さが言葉として描き出されています。すなわち

大部分が感動的であり、その多くは気持ちを引き立たせます。

多くの人々が、娯楽を追い求める者となっているような時代には、私たちの仲間の多くは、聖典について無知であります。それでも、聖典は、老にも、若きにもすばらしい宝を掘り出させてくれます。生徒に、聖典を勉強させたり、読ませたりするのによい提案を次にあげます。

日曜学校における聖典の読み方

(1) あまり高くない標準聖典を手に入れて、クラスの一人一人に、一冊ずつ与えるようにする。あるいはクラスの各々が、一冊ずつ買い、それを図書室に保管しておく。

(2) 例えば、ペテロの生涯について講義をする代りに、教師は、新約聖書の中のペテロのことを書いてある章を探し出させる(例えば、マタイ16、ヨハネ13、ルカ22、24、使徒行2、3、10)。生徒に、聖句を読ませる前に、ペテロについて興味をもたせる。生徒が、その章を読み、ペテロの性格を読んだことから分析するようにチャレンジを与える。生徒が答えた時に黒板にペテロの性格を、書き上げる。

聖典の研究を奨励するために質問をするかまたは、問題を提出する。次に生徒が答を見いだせるような箇所を指定して、朗読を割当てる。生徒は、もし確固たる目標や研究のための特別な理由がある場合はさらに熱心に勉強するものである。

(3) 聖句の多くは、レッスンの導入や結論、さらにレッスン全体のためにも用いることができる。

「人が全世界をもうけても、自分の命を損したら、なんの得になろうか。」(マルコ 8:36)

「だれも、ふたりの主人に兼ね仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛し、あるいは、一方に親しんで他方をうとんじるからである。あなたがたは、神と富とに兼ね仕えることはできない。」(マタイ 6:24)

「悪に負けてはいけない。かえって、善をもって悪に勝ちな

さい。」(ローマ 12:21)

④ 「…文字は人を殺し、霊は人を生かす。」(Ⅱコリント 3:6)

生徒に、選んだ聖句の意味を理解させる機会を与える。彼らにチャレンジを与えて想像的、創作的な考え方をするように力づける。

(4) ある単語は、生徒にしばしばチャレンジを与える。ある日曜日には聖句にある単語の説明や定義を求めて、レッスンを始めること。あなたは、補足説明できるように、よく用意して、十分な確信をもつこと。例えば、愛、信仰、救い、永遠の生命、畏敬のような単語の意味について話しあう。

例えば、永遠とは、質的意味にも量的意味にも、聖典の中

で用いられている。ある箇所では、それは、永久に続く生命文字通り始めもなく終りもない量的なものを意味し、他の多くの所では、例えばヨハネ伝17章3節では、永遠とは、神の如き質的なものを意味している。有益なレッスンというものは、この一つの言葉の解釈を、聖典及び、日常生活の両方を通して考える時に成り立つ。

(5) 生徒に聖句を覚えるようにすすめる。クラスが討論とか研究によって覚えるように云われた聖句の真の意味を理解する時に、聖句暗誦の価値が発揮される。その聖句は長すぎても、むづかしすぎてもいけない、クラス全員でまじめに声をそろえて練習させること。

聖餐会の前奏曲



7月の聖句

大人の日曜学校

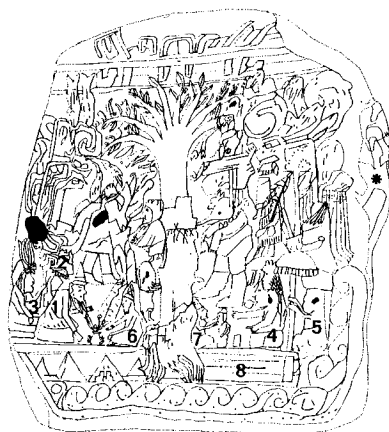
イエスは云われた「……これは、あなたがたのために与えるわたしのからだである。わたしを記念するため、このように行いなさい。」(ルカ伝22章19節)

子供の日曜学校

イエスは云われた「……心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。」

(マタイ伝22章37節)

リーハイ の石



(ステラ5号)

リチャード O. コワン

リーハイとその家族が紅海の手元に近いレムエルの谷で露営していた間、リーハイは非常に興味深い示現や夢を経験した。彼は一本の木を見たがその実は美味しそうなものであった。また彼は一本の鉄の棒を見たが、それは一本の木に通ずる道に沿ってのびていた。道のわきには深い淵があり、その向こうに一つの大きな建物があった。(I ニーファイ 8 参照)リーハイの息子はその続きの示現を受けた。その示現で父リーハイが見た示現の意味についてもっと良く知ることができた。(I ニーファイ 11~15 参照) その木は神の愛を表わしたものであり、鉄の棒は神の言葉を象徴していた。そしてそれは、神の言葉にしっかりと従って行けば、福音の実を食べることができる所へ人々を導いて行くものであった。また大きな建物は高慢を表わしていた。

リーハイは夢の中でいくつかの人々のグループを見た。一つのグループは(I ニーファイ 8 : 31~33) 物質的な目的だけを追い求めた。そのグループの中には自分たちの目標に達した人もあり、また達しない人もあった。もう一つのグループは(I ニーファイ 8 : 21~33 参照) 確固たる信仰を持たないで霊的な目標に向う意志をもつふりをしたが誘惑の霧に迷ってしまった。他の人々は(I ニーファイ 8 : 24~28 参照) 神の言葉に従って、目標に達することができたが、この世的なことにとらわれて挫折し、終りまで耐え忍ぶことができなかった。このようにリーハイは神の愛の実のうちでもっとも大切なものは永遠の生命を得るために信仰をもって終りまで耐え忍ぶことであることを知った。(教義と聖約 14 : 7 参照)

これらの啓示にあった特別な道筋に関して、ジェームス・E・タルメージ長老は次のように書いている。「示現と夢はあらゆる神権時代に神と人との交わりの方となってきた」。

古代アメリカには生命の木につけるリーハイの示現や夢をのぞかせるもう一つのものがあった。1941年に考古学者が南東メキシコのチアパス、イザパで、ステラすなわち石の記念碑を発掘した。その記念碑は高さ約3メートル、幅約1.5メートル、厚さ 60 cm の大きさであった。考古学者はそれを「ステラ5号」と名づけ、1943年に初めてそれについての本が出版された。BYU考古学部のM・ウェルズ・ジェイクマン博士はこの石の彫刻とリーハイの経験の記録の間の類似点に深い感銘を受けた。彼はこれらの類似点を多くの本や論文に発表した。1953年にBYUの考古学者はその石を模造した。そして今日本物と同じ大きさの「ステラ5号」がBYUの考古学部に陳列されている。

ジェイクマン博士によって準備された絵からとったさし絵はステラの彫刻を描写したものである。中央部に木があり、その周囲には6つの姿が見られる。

礼拝と指示をしている姿の一人の老人(1)が見られる。その老人の後に坐っている人は老人の頭上にワニを表わしているものをかざしている。古代アメリカのしきたりではワニの彫刻は伝説的な「大洪水」の後に大陸に移民するため家族を引きつれて来たと思われされる「偉大な父」の名前の絵文字として使われた。またこの偉大な父は古代ガテマラ人の最初の先祖と考えられた。更に大きなあごがこの名前の絵文字に浮彫されている。ヘブライの地名のリーハイという名はあご、あご骨あるいはほほと定義されている。

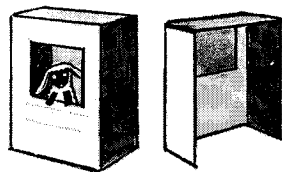
老人の後に女性の姿があり(3)彼女の精巧に出来た頭飾りは古代の王威の表示と一致している。サラリアの名前は「エホバの王女」という意味であることが思い出されるであろう。もう一つの大きな姿(4)がある。その光るあごひげは書き物にあるようにたぶん若さを表わしているのであろう。この夢のでき事はニーファイが書いたが、モルモン経に次のように述べている。「まだ大そう若かったが、もう身のたけは高く」(ニーファイ 2 : 16) 彫刻の中で彼の頭飾りはエジプトの穀物神ネピのそれに酷似している。この若い男はモルモン経のサムに一致するもう一人の男(5)に助けられているように思われる。最後に、もう二人の男(6と7)がたぶん家族の中での年長者を暗示しているのか老人に一番近づいている。また同時に彼らは木に背を向けているが、その木に対する拒否を象徴しているものであり、レーマンとレムエルを表わしていることが明らかである。原型の石の彫刻で、一番際立ったものの一つはまっすぐな深いみぞ(8)である。それは鉄の棒を表現しているのであろう。

ボールばこでたのしくあそびましょう

イー・ラバーン シェパード

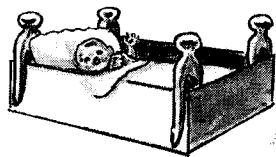
あやつりにんぎょう

このごろやっているにんぎょうげきをげきじょうでみたことがありますか？ もしまだでしたら、おうちのにわで、じぶんたちでやってみませんか？ はこのそにしかくのあなをあけて、かたほうをきりってください。こうするとすてきなふたいができます。さあみなさんもおにんぎょうさんをいれて、おしばいをやつてください。



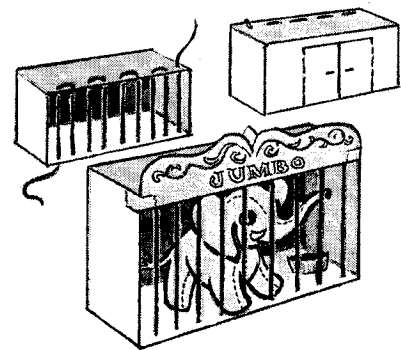
おにんぎょうさんのベット

あなたのおにんぎょうさんはねむくいですか？ さあおにんぎょうさんのためにかわいいベットをつくりましょう。小さなあきばこをひっくりかえておいて、よすみに4つのせんたくばきみをはさみます。それから、ちいさなまくらはここに置いて、そのなかにおにんぎょうさんをそっといれてねかせます。すると、おにんぎょうさんが、ぐっすりひるねをします。



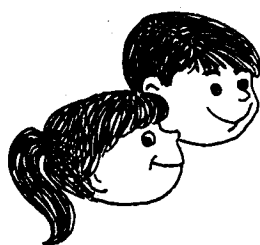
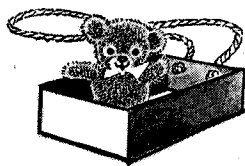
どうぶつのおり

はじめにはこのふたをとりはずします。どんなおきさのはこでもよいです。はこりようがわのふちにそってあなをあけます。それから、ながいくつひもかけいとをそのあなにとうして、おりのさんをつくります。もしかわったサーカスおりをつくつてみたいとおもったら、おりのながさだけのいろがみかボールがみをきって、えのぐかクレヨンでもようをかきます。それをはこのうえにノリでつけます。うらになるほうには、どうぶつたちがはいれるだけのおきさにきって、ドアをつくってください。



おもちゃのそり

おもちゃをそりにのせてあげましょう。ちいさなはこに、二つのあなをあけます。いとをそのあなにとうして、りようはしにこぶをつくってぬけないようにします。さあ、できあがりです、くまさんとおにんぎょうさんをそりにのせて、どこかへゆきましょう。



と せい 聖徒の道 みち

1968 年7月号

こどものため

次郎と夢

バーナディーン・ビーティ 作
ジェリー・トンプソン 絵

次郎と彼の友だちは美術の山田先生と小高い山の上に立っていました。彼らの足もとには緑に囲まれた京都の町が横たわり、春の光の中に輝いていました。次郎はその美しさにはっとして、スケッチブックを勢いよくあけました。

「次郎君、ちょっと待ちなさい」と山田先生が言いました。そして生徒たちに自分のまわりに集るようにと合図

しました。

「みなさんがびっくりするようなことをお知らせします。皆さんの絵は大和先生に見ていただきましょう。先生は皆さんの中で一番よい絵を書いた人に無料で教えると約束されました。」山田先生がこのような知らせるとみんな興奮した叫び声をあげました。彼らは大和先生がきびしい先生であるということを何回もきかされていましたが、だれもが先生に習いたい気持ちでいっぱいでした。それは大和先生が日本では最もすぐれた芸術家であり先生であるからです。

次郎の目は輝きました。彼がいつも夢に見ていた大和先生に教えてもら



ことはすばらしいからです。

「みなさんスケッチブックに絵を書いて、一時間後にここへもどりましょう」と山田先生が言いました、次郎は「竜の池」の近くの松をスケッチしようとしていました。大和先生の絵の中心にはいつも松があったからです。

そんなことを考え、ふと気がついて見ると、次郎を呼ぶ楽しげな幼い子供の声が聞えました。一人の少女がみんなの間を走りぬけ、次郎にだきついてきました。彼はびっくりして声をあげそうになりました。それはかわいいうめいのえみちゃんでした。友だちの肩越しに次郎の兄とその美しくて若い奥さんもいるのが見えました。

「ちょっとえみを見ていてくれないかね、次郎」と俊夫さんが声をかけました。次郎はこんな時、えみを見るひまなんてないとおうと思って口を開きかけましたが、もう兄と奥さんは下の方へおりて行ってしまいました。

次郎はまゆをひそめました。普通の時でしたら、えみを見てもかまわなかったのですが、今日はちがっていました。彼は友だちがそれぞれ好きな方向に散らばって行くのをうらやましうにながめていました。

「まだ小さな子供だから余り手はかからないでしょう。」と山田先生は次郎のそばに来て言いました。

えみは大きな声で笑いました。「次郎ちゃんは私が好きなの。私にねこを書いてくれるわ、そして犬も…」

「ねこ？犬？」山田先生はそう言いながら首をかしげました。

次郎は赤くなりました。「兄さんかもどってきたら僕たち『竜の池』にいると伝えて下さい。」と彼は早口に言いました。

次郎は松の木立が見わたせる場所へペチャクチャと楽しげに話しているえみをつれて行きました。

「ここにおすわり」そう言って次郎は彼女を自分のそばにすわらせました。

「子ねこを…ねえ子ねこを書いてちょうだい。」えみは次郎のスケッチブックの上に体をよせて、ニコニコし見上げるようにしてたのみました。

「だめだよ、えみ」次郎はいらいらしながら彼女をおしのけるようにして言いました、「静かにじっとしてなさい。何も書けないじゃないか。」

えみは驚いて目を大きく見開きました。小さい頃から今まで、次郎は彼女のために絵を書くことをこつたことがありませんでした。「おねがい！」と再び彼女は一生懸命たのみました。

「しずかに！えみ！」次郎は怒ったように答えました。えみはがっかりしたように小さな声で「ママのところへつれてって！」と言いました。

次郎の目は怒りで光っていました。「ずっとママのそばにいればいいのに…。ぼくのそばにいるときは、ぼくの言うことを聞きなさい。」すると突然えみは立ちあがり、小路をあつ小さな足でいそいで走り出して行きました。次郎はとび上って、彼女の後をおいかけてました。そしてえみの肩をつかんでだき上げ、もとの場所にもどり、その

のを見ていました。そして彼が小石をにらみつけてはすてしてしまうところも見ていました。彼は他のにこに顔のかいてある小石も同じようににらみつけてはすてしていました。

フィルムはため息をつきました。「いい考えじゃなかったんだね。」

「そんなことないわ。あきらめちゃだめよ。どうしてもニコニコするまでつづけなくちゃ。」とミスティが言いました。毎日、二人のよう精は笑顔の小石にかきました。時々ことばもかきました。「ヤァー、今日は」とか。しかし、ピンバリィは毎日、小石をすてしてしまうのです。そこでミスティが言いました。「いそいで小石をさがしているところを見ると、ピンバリィはこのゲームを楽しんでいると思うわ。」

翌日フィルムはにやにやしているワニの顔をかきました。それを見たピンバリィは片方のまゆをあげ口の片すみをちょっとあげました。するとミスティは叫び声をあげそうになりました。

それからフィルムとミスティはいろいろおもしろい顔をかきました。彼らはピンバリィのしかめつらがだんだんはぐれてくるのに気がつきました。

ある日フィルムはおそろしくまゆをひそめたものすごい顔のかいて、その下にミスティの名前をかきました。ミスティもフィルムの顔をピンバリィがまゆをひそめている顔に、にせてかきました。それから二人はいっしょにピンバリィの顔を笑っている目と、耳から耳までとどきそうなにこにこしている口の絵をかきました。そして絵をかいた方を上にして、ピンバリィの家の外にならべておきました。

ピンバリィが出てきて、この三つの顔を見ました、彼は最初のミスティの小石をけてしまおうと思ったがかがんでそれをひろいました。少し笑顔になりかけました。フィルムの顔のかいてある小石をひろったら、だんだんと笑顔が顔中に広がって行くようでした。しかし自分の顔のかいてある石を見た時、彼はしんけんにそれを見つめていました。そしてあちこちひっくりかえしていました。やがて大きな声を立てて笑い出しました。

翌朝ピンバリィが出てきたら、ドアの前に大きな平らな石がありました。その石の上にはハート型の紙がはってあって、次のことがかかれてありました。明日、三時に——パーティーを開きますから私たちの家にどうぞいらして下さいお迎えにまいります。お友だちのミスティとフィルムより。

ミスティとフィルムはピンバリィがもしかしたらこないかと思いました。しかし片側だけになった木のところにやってきたらピンバリィが待っていました。彼はしかめつらをしていましたが「行くことにしたよ。それはお前たちがわしをからかうので、やめさせるためじゃ。でもわしが笑っている絵は気に入ったよ。もしかしたら、楽しんだり、喜ぶことができるようになるかも知れないね。よくわからないが」と。フィルムとミスティはピンバリィが彼らにはずかしそうにほほえみかけたので笑い出しました。

「もちろん、でますよ」と彼らは言いました。「あなたは小石ひろい仲間の中で一番楽しい小石ひろいになりますよ！いまにわかりますよ！」

ぬ人が山田先生とならんで立っていました。

「おそいね、次郎君、大和先生はお待ちだよ」と山田先生が言いました。

有名な大和先生の輝く目を見て、次郎は心臓がとまりそうでした。

「さあ、スケッチを見せてごらん。どんな松の木を書いたかね。大きいのかい、それとも小さいのかい？」

「ぼ……ぼくは松の木を書きませんでした。」次郎は言いました。

大和先生はいきなり手を出して、次郎の手からスケッチブックをとり上げさっと開いて見ました。

大和先生は目を丸くしたかと思うとぶっと吹き出しました。次郎は耳まで赤くなりました。

「ぼ……ぼくは松の木をスケッチしようと思ったのですが……」次郎は口ごもりました。「けれどもぼくの小さなめいがねこを書いてくれって言った

んです。」

すると大和先生は「その子に感謝しなさい」と言いました。「だれでも松を書く。だがこれは……」そう言いながら大和先生はみんなが見えるように、次郎のスケッチを高くあげました。

「これは…こういうねこのスケッチは独創力があります。私の松の木をただまねしたものではありません。」彼は次郎の方を向いて「明日、学校が終わってから私のスタジオに来なさい。君のスケッチが入賞だ。」

次郎の目は喜びで輝いていました。「ありがとう」そう言いながら次郎は大和先生におじぎをしました。それから大きな声で笑い出しました。彼は家に帰るのが待ち切れませんでした。えみをぎゅっとだきしめて彼女のためにねこをたくさん——何百というねこを書きたかったのです。うれしそうな楽しそうなネコを——。

南極のふしぎな火

アルマ・シー・デニー

だれかがこの地球上のあるところ
で、人の鼻がふしぎな火によ
うて、時々光を出すと言ったらあなたは
信じないでしょう。でも、それはほん
とうのことなのです。

遠い南極では、雪を吹き散らすよう
な風がふく日には、電気がおきてとが

った物はみな青いかすかな光をはな
ちます。それは人の鼻であったり、ラジ
オ塔であったり、どんなものがたつ物で
も同じように光ります。このふしぎな
光のことは、何世紀も前から船乗りた
ちが知っていました。彼らはそれを「セ
ントエルモの火」と呼んでいました。

小石ひろい

ソルヴェーグ・ポールソン・ラッセル作



なった木のところにやってきたとき、
この木になにか変わったことがおきてい
るなあと気がつきました。

「あの木は前よりまがってきた。木
の下に何かあるようだ。しらべてみよ
う。」とフィムがいました。

木のところにつくちょっと前に彼ら
はおどろいて立ちどまりました。そこ
にはとても気むずかしそうな年とった
一人のよう精が、がっかりしたように
背を丸くしてすわっていました。

「ここにだれかが住んでいることを
知りませんでした。」とフィムはてい
ねいに言いました。「あなたのお名前
は？」とミスティがききました。

よう精はしかめっつらをしながら、
彼らを見上げて、「君たちの知ったこ
とじやない。」とらんぼうに言いまし
た。「でもおしえてあげよう。わしの
名はピンバリー・パムだ。小石ひろい
のよう精の一人さ。わしの仲間は季節
が変るごとに旅をする。けれど、去年
の秋ここから出て行く時に、わしにこ
こに残っているようにと言った。夏に
なったらまたあえるだろう。」

「小石ひろい？聞いたことがないで
すね。」とミスティが言いました。す
ると年とったよう精はにらみつけまし

フィムとミスティは、ただのよう
精で、かたがわだけになった山
リングの木の南にすんでいました。
彼らのきらきら光る目は、いろいろな
ものをみることができました。だから
彼らは、ある寒い日、かたがわだけに

た。「小石ひろって聞いたことがないんだって？小石をひろって、しだのたねをさがすのさ。しだのたねでおいしいスープができるんだ。仲間はわしがあまりおこりっぽくてきげんが悪いから、わしをおいて行ってしまった。一冬一人ですごしたらよくなると思っているのだろう。だが、それはむだなことじゃ。よくはないさ。」あまりひどいしかめつらをするので、ピンバリーの目は一直線になりました。

「もっと楽しくなれるように助けましょう。」とフィムが言いました。「毎日ちょっとだけにここにすればとても楽しくなるのだからなあ。」「ごめんだ。ここにこするつもりはちっともない。さあ、さっさと行ってしまえ。」

「もし、気が変わったら、いつでもお友だちになりますよ。」ミスティはそう言ってしかめつらをしているピンバリーをそのままにして、フィムといっしょに行ってしまいました。

翌日、彼らはかたがわだけになった木とその周囲を見おろせるところにやって来ました。彼らは、ピンバリー・パムが小石をひろってはひっくりかえして、しだのたねをいっしょうけんめいさがしているのを見ました。

「彼が一人ぼっちで、あんなにつまらなそうなのを見ると、ぼくかなしくなるよ」とフィムが言いました。

「私もそうなの」とミスティも同じ気持ちでした。「彼があのもまでもいいと思っけていても、どっちにしても、私たちが何か考えて彼を助けてあげられるかも知れないわ。」

フィムは目をして、とがった目を動かしました。「小石に関係のあるこ

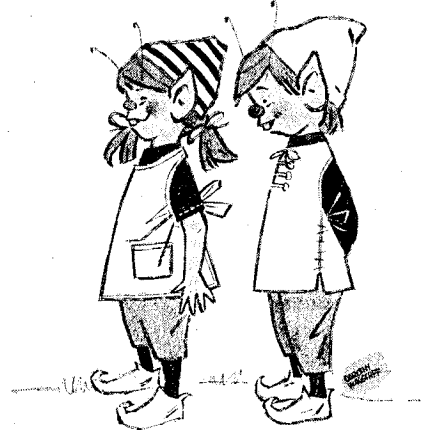
とでなくてはならないわね。なぜならそれしか興味が無いのだから。にここにこえしてくれれば……。笑顔は人に伝わる……」とフィムは途中まで言いかけてそれから「わかった！ミスティ、きみのクレヨンをぜんぶつかっていいかい？」と言いました。

ミスティはうなずきフィムの考えをきこうと思ひ地面にすわりました。

翌朝早く、フィムとミスティはしのびあしで、片側だけになった木のところにやってきました。根もとからきこえるいびきで、ピンバリー・パムはまだ眠っていることがわかりました。彼らは気むずかしいよう精が小石をひろっているところへそと行きました。

「彼らはポケットの中からクレヨンを出して、すべすべしたいくつかの小石をみつけてはその上に丸いここに顔をかきました。そしてかいた方を下にして地面におきました。それから近くのしげみの中にかくれました。

しばらくしてピンバリー・パムが出てきて、小石の上をざくざくと歩いてきました。ミスティとフィムは彼が最初の小石をひろって、ひっくりかえす



場に立たせました。「いうことを聞かなければ、ぶつよ。ほんとうだよ…えみ」

次郎はスケッチブックを勢いよく開いた時、えみの小さな体がふるえているのに気がつきはっとしました。えみの顔には涙がいっぱいこぼれていました。次郎はえみの顔をちらりと見て、恥ずかしさのあまり胸がしめつけられるようでした。彼は兄さんが自分にえみをたのんで行ってしまったことをえみのせいにしていたのです。

「……泣かないで」と次郎が言いました。

「もうわたしのこときらいなの？」悲しくなってしまったえみは息もとまりそうに泣きじゃくっていました。

次郎はため息をついて、彼女を自分の方に引きよせてきました。「そんなことはないよ。ほんとうに好きだよ。いじわるしてわるかったね。ごめんよ。」えみは泣きやみました。そして恐る恐る次郎の方をむいてほほえみました。

「ねえ、わたしに子ねこの絵を書いてちょうだい」彼女はねだりました。

「ああ、ぼくは松の木よりねこの方がうまいんだ」言いながらあっという間に大きな口をあけあくびをしているおもしろい子ねこの絵を書いたので、えみは喜んで笑い声をあげました。

「ねむそうな小ねこだ」ねとえみは叫びました。次郎はほほえんで、今はただ心の中は書く喜びでいっぱい、うれしそうなかねこを書きました。おこっているねこも書きました。次にいす

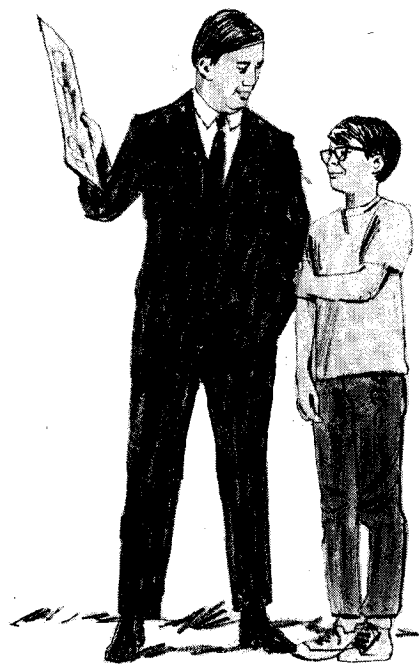
のクッションの上で眠っているだきしめたいようなかわいい子ねこをかいたら、彼とえみは笑い出しました。

その時「次郎、そこにいたのか。」という俊夫さんの声がきこえてきました。えみは次郎にちょっとはおずりをしてから、お母さんのところへかけて行きました。

「ありがとう。めんどろをかけたんじゃない。」えみのお母さんが言いました。

次郎は立ち上って、ていねいにおじぎをしました。大和先生と勉強する機会を失ったことは彼らに言っても仕方がないと思いました。彼は時計を見ました。すでに一時は過ぎていました。

集合場所にもどると、お友だちはもう皆集っていました。背の高い見知ら





悲劇か 宿命か

スペンサー W. キンボール長老

近頃多くの悲惨な出来事が発生し、多くの人々はこうした悲劇から主を非難し、悲劇と思われることにくじけているが、私はここで緊張をやわらげ、真面目な考え方に活気を与え、かつ、しばしばたずねられながらも、めったに答えられていない若干の問題にいく分答えられる二三の所信を述べてみたいと思う。

ある新聞に次のような見出しがあった。「墜落事故43名死亡」、「山の惨事生存者なし」。これを読む大勢の人たちは、「なぜ主はこのような恐いことを起されたのであろうか」と一斉に声をあげて言うであろう。

ある子供が精神薄弱児として生まれ、決して正常な生活をするのができなかった。なぜ、主はこのようなはくだつをし、重荷をこの子におわせられたのであろうか。

私はこれらの質問に答えることができればよいと思う。いつかわれわれは理解し、満足するであろう。次は私自身の結論であり、これらの結論に私は全責任を持つものである。

神と悲劇

私は皆さんにいくつかの質問をしたいと思う。

飛行機を山間に入れ、搭乗員の生命を奪ったのは主であったであらうか。それとも機械の欠陥であったか、または人間の過失であったであらうか。

主はこれらの悲劇を防ぐことができるであらうか。その答えは「しかり」である。主はわれわれの生活をコントロールするあらゆる力を持たれ、苦しみより救い、あらゆる事故を防ぎ、あらゆる飛行機や自動車の行き先を教え、またわれわれに食を与え、われわれを守り、仕事、労苦、病気、死からさえ救いたもうのである。

しかしそれがあなたがたの望むことであらうか。あなたがたは、自分の子供たちが苦勞したり、失望したり、誘惑を受けたり、悲しんだり、苦しんだりするのを見て、すぐにかばうであらうか。

根本的な福音の律法は自由意志ということであり、注意深い、正しい生活を強制することは、この根本的な律法を無視することになり、成長を不可能にさせてしまう。

主がわれわれに試練を与えてそれにうち勝たせ、責任を与えて努力させ、仕事を与えて鍛練し、悲しみを与えて心を試めされるということには深い知恵がないと言えるであらうか。

われわれは力を試されるために誘惑を受けたり、忍耐力を得るために病を与えられたり、不死不滅と栄光とを得られるように死を与えられてはいないだろうか。

はじめに、創造主はモーセに次のように説明された。

「……………サタンわれに叛きて、われ主なる神のすでに人に与えたる自由意志を滅ぼさんとなし、……」（モーセ4：3）

「また主、アダムに言いてのたまわく、汝らの子らは罪の中に宿さるる故に、すなわち彼ら成長し始むるやその心に罪を宿す。而して善き事を賞美するを知らんがために、苦きことを味うなり。而して彼らは善悪を区別する力を与えらる。然るが故に、彼らは自由意志をもつ者なり。……」（モーセ6：55～56）

「主にあって死ぬ」人たち

主が死というものを常に呪いであるとか、悲劇であるとかお考えにならなかったことは明らかである。なぜなら主は言われた。

「……主にありて死ぬる者は幸福なるかな。……」（教義と聖約 63：49）

生活は絶えず続き、自由意志も続くのであり、災難であると思われる死は仮面をかぶった祝福ともなる。

メルヴィン・J・バラードは次のように書いている。

「私は6歳になる子供を亡くした。私はその子が死後、霊界にいていかに自分の選択の自由を行使して相手となる人を得るのかを見た。時が来れば、その子と価値あるすべての人々に、主の宮のすべての祝福とシーリングの特権がもたらされるであろう。……」（メルヴィン・J・バラード「三つの光栄」より）

もし早く死ぬことが災難であったり、悲劇であったりすれば、この世の生活は、霊界に入り、そして後に救われて最高の光栄へ進むよりはるかに良いということになり、この世が完全なところであるなら、死は全くのつまづきとなってしまふ。しかし、死は何ら悲劇ではなく、罪の中にのみ悲劇が存在するのであると福音ははっきりと教えている。

私は第一次世界大戦中に戦死した若い学徒の葬式で話をしたことがある。戦争によって何千何万という若者たちがつぎつぎと永遠の世界に送られたが、これらの義しい若者たちは、とらわれている霊たちに福音を宣べ伝えるために霊界へつかわされたということをして私は信じている。

「死者の贖い」に関する示現の中で、ジョセフ・F・スミス大管長はまさにこのことを見たのである、これは1918年10月3日のことで、この日彼は洪水前に関して特にペテロの書簡を研究していた。彼は次のように書いている。

「……書き誌されているこれらの事柄を熟考していると、私の理解のまなこが開かれ、主の「みたま」が私の上にやどり、私は大勢の死者の群を見た……。

この義しい大勢の人たちは救い出される時をよろこび、待ちつつ語りあっていた……。神の子が現われて、このように信仰あついで、とらわれの身の人たちに自由を宣言したまい、また死からの贖い、及び悔改めを条件とする個人の罪からの贖いに関する説き明かしをされた。しかし主は悪人たちのところへは行かれなかった。またこの世にある時に、自らを汚したり、悔改めなかった人たちの間にも主の御声はあげられず、古代の予言者たちの証詞と警告を拒絶した人たちは、主の御座を見ることが御顔を仰ぎ見ることさえ出来なかった……。……私は、主が真理を拒絶した不従順な人たちや悪人たちの間には行かれなかったことを感じとった。……しかし、義しい人たちの間から見ると神の御子はその軍勢を集めたまい、彼らに出て行って福音の光明をもたらすように命じたのである。

……贖い主は霊界にてその時を過ぎられ、肉体にある時に贖い主について証した忠実な霊たちに指示を与えて、この贖いのおとずれをすべての死者にもたらすために用意をさせた。これらの死者のもとに主が自ら行くことができなかったのは、彼らが反叛と罪を犯した霊であったからである。」

スミス大管長は続けて次のように言っている。

「義しい人たちのこの大集会に集った偉大な、力ある人たちの中には、父なるアダムがいた。またイヴとその多くの息子、娘……最初の殉教者アベル、セツ、ノア、……偉大な大祭司セム、アブラハム

イサク、ヤコブ、モーセ、エゼキエル、ダニエルがいた……これらすべてとさらに多くのもの……ニーファイ人の間に住んでいた予言者も……予言者ジョセフ・スミス、と私の父であるハイラム・スミス、ブリガム・ヤング、……その他選ばれた数々の霊たちが霊界に見られた。私は、彼らがまた始めより、神の教会を統治する者として選ばれた高貴にして偉大なる霊たちの間にあったということも観察した……。

私はこの神権時代の忠実な長老たちが、この世を離れた後も、悔改めと贖いの福音を宣べ伝える仕事を続けているのを見た。」（ジョセフ・F・スミス「福音の教義」P472～476英文）

死は、その時に好機への扉を開くことであり、この示現によって解ける疑問もあるであろう。

もしすべてが癒されたなら……

さてわれわれは、義しい人が殺されたり、若い父親や母親が家族から取り去られたり、おそろしい死がおとずれたりする時に、多くの人々がとても批判的になるのを知っている。ある人は何回も祈ったのに答えられなかったようだとしり、またある人は聖なる人による儀式が無視され、敬虔な祈りによっても回復しなかったと言って信仰を失ない、ひねくれてしまふ。しかしながら、すべての病人が癒され、すべての義人が保護され、すべての悪人が亡ぼされるとするなら、天父なる神の全計画は全く無効になり、福音の根本である自由意志の原則は意味のないものになってしまうであろう。

苦痛、悲しみ、あらゆる罰が直ちに悪を行う者の上にもたらされるなら、いかなる人もあやまちを繰り返すことはないであろう。また良い行いをする人に、喜びと平安と報いが直ぐに与えられるなら、いかなる悪も存在し得ないし、すべての人は善で、力のためしもなく、人格の発達もなく、能力の成長も自由意志もなくなってしまふ、サタンの思うがままになるだけであろう。

われわれの利己的な欲望と限られた理解に従って、すべての祈りが直ちに答えられたならば、苦しみ、悲しみ、失望や死でさえもほとんどなくなることであろう。そしてこれらのものが無いとすれば喜びも、成功も、復活も、永遠の生命と神の存在もまたなくなってしまふであろう。

「それはすべての物事には必ずその反対のものがなければならぬからである。……（正義……不正）（聖潔……憐むべき様）（善……悪……）」（Ⅱニーファイ2：11）

病人が癒しの儀式を執行され、十分な信仰があり、また死の命を受けざる者」（教義と聖約42：48）であるなら、必ず癒されるという確信をわれわれは主により与えられている。ここに三つの要素がある。

多くの人々はその儀式に従わないし、さらに多くの人は喜んで受けようとしなないか、または十分な信仰を行いにあらわすことができない。しかし重要な要素と思われるものは他にもある。それは「死の命を受けざる者であれば……」ということである。

神のすべてのわざには目的があり、神は始めより終りまで見通したものである。何がわれわれ人間を打ちたて、あるいは亡ぼすかまた何が計画をさまたげ、何がわれわれに最後の勝利をもたらすかを知りたいものである。

限られた洞察力をもった限りない力

神権の力は限りないものであるが、神は賢明にもわれわれ一人一

人にある種の限定を与えられている。私は自分の生活を完成するにつれて神権の力を発展させることができるのである。私はその神権を通してさえも、かならずしもすべての病人を癒すことができないことさえあるのを感謝している。私はもはや息絶えんとしている人を癒し、苦しんでいる人を苦しみより救うことができるかもしれないが、神の目的をとどめてしまうのではないかとおそれるのである。

もし私が限らない力を持つと同時に限られた洞察力と理解力とを持っていたなら、アビナダイが火あぶりされた時、彼を炎の中から救い出すことが出来ていたかもしれないし、またそうすることによって、私は彼をだめにして、より低い王国にとじこめてしまうことも出来たであろう。しかし、アビナダイは殉教したのであり、殉教者の報い（すなわち昇栄）を受けたのである。その半面アビナダイは地上に生きながらえて、信仰と勇気と美德さえも失い、その結果昇栄の機会を失うこともできたであろう。もし私が無限の力を持っていたら、パウロを敵から守ってあげたいと思っていたであろう。

私はきっとパウロの「肉のとげ」を癒し、そうすることによって計画を無効にし、パウロをより低い光栄に追いやってしまったであろう。パウロは三回祈りを捧げて、自分から「とげ」を取り除いてくださるようにと主に願ったのであるが、主は彼の祈りに答えられなかった。パウロは雄弁で、丈夫で、顔立ちがよく、自分を謙遜にさせるものから遠ざかっていたとしたら、何度も道に迷うことがあったであろう。パウロは述べている。

「そこで、高慢にならないように、わたしの肉体に一つのとげが与えられた。それは、高慢にならないように、わたしを打つサンタの使いなのである。

ところが、主が言われた、『わたしの恵みはあなたに対して十分である。わたしの力は弱いところに完全にあらわれる』。それだから、キリストの力がわたしに宿るように、むしろ、喜んで自分の弱さを誇ろう。だから、わたしはキリストのためならば、弱さと、侮辱と、危機と、迫害と、行き詰まりとに甘んじよう。なぜなら、わたしが弱い時にこそ、わたしは強いからである。』（Ⅱコリント12：7、9～10）

パウロのそのような癒しは彼をだめにしていたかもしれない。

1844年6月27日に、もし私がカーセージの牢獄にいたとしたら、予言者と祝福師の体を貫いた弾丸をおそらくそらして、私は彼らを苦しみや苦痛より救い出していたかもしれない。しかしそうであれば彼らに殉教者としての死と報いをも与えることがなかっただろう。私はその決断をする必要がなかったことをうれしく思っている。

私はそのような抑制されない力をもって、軽べつしいばらの冠、法廷における侮辱と肉体上の傷害よりキリストを守りたいと感じ、電光によって迫害する者を打ち倒していたであろう。

キリストが十字架にはりつけにされた時、私はキリストを救いだし、傷の手当をして癒し、気付薬の代りに冷水を与えていたであろう。私はキリストを死より救い出し、この世に贖いの犠牲を与えることなく、全ての計画を無効にしてしまったかもしれない。

あなたがたは、自分の愛する人たちに生命をあえて再び得させようとするであろうか。私自身はそうすることをためらうであろう。私は「すべてにありて汝の御意のなんんことを。汝、最も良きことを知るが故なり」と祈ることができるのを心から感謝している。私は最後の決断をする力を持っていないのをうれしく思う。もしそ

の力を持っていたら、われわれは愛する人たちの能力や力の失われた状態すなわち恐ろしい破滅へと追いやってしまうかもしれない。

死——人生の一つの経験

すべての人は死なければならない。死は人生の重要な部分でありもちろん、われわれはその変化のための準備が全くできていないしまた死がいつもたらされるかを知らずに、生命をながらえようと一生懸命に闘っている。

なぜわれわれは死を恐れるのであろうか。われわれは病人のために祈り、苦しむ人たちのために祝福を与え、苦しみを癒し、やわらげて、死期を引延ばすことができるように、主に歎願するのであるが、永遠とはそれほど恐ろしいものであろうか。それほどこわいものであろうか。

予言者ジョセフ・スミスは次のように強く述べている。

「主は人のうらやみ、この世の悲しみと罪惡より逃れさせるために、多くの人の生命を幼い時にさえ取りさしたもう。このような幼児たちは、この世に住むには、あまりに純潔で、愛らしすぎたのである。だから正しく考察するなら、われわれは、彼らが世の罪惡より逃れられたことを、悲しむどころかうれしく思うのである。われわれは彼らと再会するのである。若くして死ぬ人と年老いて死ぬ人との唯一の相違は、一方は他よりも天国と永遠の光明と光栄の中でより長く生活するということで、この悲しい世界より少しばかり早く逃れるということである」。

「誠に、この後主にありて死ぬる者は幸福なるかな。……彼ら死にし者よりよみがえり、その後死ぬことなく……、而して主の来る時生き永え、信仰を保つ者は幸福なるかな。さりながら、その人齢充つれば死ぬるべく命ぜらる。」（教義と聖約63：49～50）

すべての人はたとえ大きな信仰をあらわしても、常に癒され助けられるとは限らない。主の御言葉に再び耳を傾けてみよう。

「また、教会の長老を二人またはそれ以上呼びてその人の為に医しを祈り、わが名により按手を為すべし。而して、もしその人死ぬる時はすなわちわれにありて死し、その人生くる時はすなわちわれにありて生くるなり。汝相愛して共にこの世に生きよ。されば死にたる者を失いたるために涙を流し、ことに栄光ある復活の望みを有たざる者のためにいよいよ歎き悲しめ。およそわれにありて死ぬる者は死を味わうことなし。そは死は彼らにとりて甘ければなり。また、われにあらざりて死ぬる者は禍なるかな。そは死は彼らにとりて苦ければなり。重ねて言う。およそわれにありて医さるべき信仰ありて、死の命を受けざる者は医さるべし。」（教義と聖約42：44～48）

「もし死の命を受けていないなら」これはきわめて重要な言葉である。私は死ぬ時があると確信している。私は運命論者ではない。多くの人々は不注意であったり、肉体を乱用したり、不必要な機会にあずかったり、危険、事故、病気などに身をまかせたりしているので、「主の命じる死期」が来る前に死ぬと思こんでいるのである。

近代の啓示の中に次のごとく書かれている。

「われまた汝に告ぐ、わが僕ライマン・ワイト謙れる精神を以てシオンのため教えを宣べつづけ、……されば、われは鷲の翼に乗る如く彼を背負わん。……かくして彼その業を完うせむ時は、われの彼を迎えること今われと共にあるわが僕デビッド・パッテンを迎えたる如く、またわが僕エドワード・パートリッジまたアブラハム

と共にその右の方に坐する老いたるジョセフ・スミス（初代）を迎えたる如くにして、彼は祝福を受け且つ聖き者たらん。彼はわがものなればなり。」（教義と聖約 124：18～19）

デビッド・パッテンは殉教により祝福されたと言うのは非常に革命的であると思われるが、偉大な目的のために死ぬのは何んと輝かしいことではないか。デビッド・パッテンは「……われの彼を迎えること今われと共にあるわが僕デビッド・パッテンを迎える如く……」という言葉の証人として、彼は昇栄という高い光栄を確信していた。

また洪水以前の人たちに関して、次のように書かれている。

「あなたは悪しき人々が踏んだいにしえの道を守ろうとするのか。彼らは時がこないうちに取り去られ、その基は川のように押し流された。彼らは神に言った、『われわれを離れてください』と、また『全能者はわれわれに何をなしえようか』と。」（ヨブ22：15～17）

伝道の書に次のような言葉がある。

「天が下のすべての事には季節があり、すべてのわざには時がある。生るるに時があり、死ぬるに時があり、植えるに時があり、植えたものを抜くに時がある。」（伝道の書3：1～2）

「悪に過ぎてはならない。また愚かであってはならない。あなたはどうして、自分の時のこないのに、死んでよかろうか。」（同上7：17）

私は、われわれが時がたたずに早く死ぬことはあっても、（例外はあるけれども）めったに自分の「時」以上に長く生きることがない信じている。

25歳のユダヤの王ヒゼキヤは、その後継者や前の王たちよりはるかに、神の教えを守っていた人であったが、そのユダヤの王には天与の死期が与えられていた。

「そのころ、ヒゼキヤは病気になるて死にかかっていた。アモツの子予言者イザヤは彼のところにきて言った。主はこう仰せられます、『家の人に遺言をなさい。あなたは死にます。生きながらえることはできません』。」（列王紀下20：1）

ヒゼキヤはわれわれのように生命を愛していたので、壁に顔をそむけてひどく泣いた。

「『ああ主よ、わたしが真実と真心をもってあなたの前に歩み、あなたの目にかなうことをおこなったのをどうぞ思い起してください』。そしてヒゼキヤは激しく泣いた。」（同上20：3）

ヒゼキヤには、われわれのように、生命にすがりつき、それを守りたいという気持があったのは全く当然のことであった。

主は彼の祈りを聞きとどけてくださった。

「『……わたしはあなたの祈りを聞き、あなたの涙を見た。見よ、わたしはあなたをいやす。……かつ、わたしはあなたのよわいを15年増す。わたしはあなたと、この町とをアッシリアの王の手から救うであろう。』」（同上20：5～6）

主は御計画を少しお変えになり、ヒゼキヤにさらに15年を与えられて、ユダヤをアッシリアから解放された。またアビナダイも「死の時」がくるまでは殺されなかった。

「私にさわるな。……神が必ずあなたらをうち破りたもうであろう。私は主が私をつかわして伝えさせようと思いたもうた使命をまだ果たしていない。……それで、神は私が今亡びるのを許したまわなのである。……あなたらは私を殺す力がないことを自分で知っている。……」（エサヤ13：3，7）

彼は自分の使命を果すまで十分に保護され、その後に殉教したのである。

何千人もの人々を改宗させたヒラマンの息子のリーハイとニーファイは食物も与えられずに牢屋につながれていた。迫害者は二人を殺そうとしたが、二人は火の柱のようなものにとりまかれた。

その宣教師たちは大胆に語った。

「『……汝らがわれらを捕えて殺せないのは……』」

地が激しく震い、牢屋の壁がゆり動いて、一つの声が聞えた。

「『……黒雲の上にあるかのように聞えて、……わが僕らを亡ぼさんとすることをやめよ。』」（ヒラマン5：26，29）

しばしば贖い主は「わたしの時は来ていない」と述べておられる。しかし、主は最後にエルサレムに来られる時に、弟子たちに向い、「わたしの時が来た」と宣言なさった。

ヒーバー・C・キンボールは主によりまれな約束を与えられた。それは自分の行く末を支配するという約束であった。彼はアブラハムに与えられたような、とても考えられないような一つの試練を与えられたのである。彼は不安と当惑の中で、主に願い求めてくれるように予言者ジョセフ・スミスにたのんだ。そして予言者は次のような啓示をうけた。

「行きて、命じられたごとくになすよう彼に告げよ。我もし彼に背教の危険あるを知らば、彼を我がもとに取りあげん。」（オルソン・F・ホイットニー著「ヒーバー・C・キンボールの生涯」）

信仰をもって神と共に歩む

神はわれわれの生活を治め、われわれを導き、祝福されるが、われわれに自由意志を与えておられる。われわれは神の御計画にのっとった生活をすることもできるし、またおろかにもわれわれの生活の期間を短くしたり、終らせたりすることが出来る。私は、主がわれわれの行く末を計画しておられることをよく知っている。われわれは生活を短縮することはできても、決して長びかせることはできないと考えている。いつか完全に理解するであろうが、未来の立場から、過去をふりかえってみる時に、われわれにとって理解しがたく思われたこの世の多くの出来事に満足しているであろう。われわれはこの地球に肉体と経験を得るために来て、そこで喜びと悲しみ、苦しみと安らぎ、平安と困難、健康と病氣、成功と落胆などを経験するであろうし、死ぬであろうことも、生れてくる前に知っていた。われわれはこうした好ましい事柄、好ましからざる事柄の両方を喜んで受け入れるためにこの世に来たのである。われわれは疑いなくたとえそれが不具であっても喜んで肉体を得たいと考えていたのであり、たとえ一日、一年、一世紀でもよいからこの地球にやって来る機会を熱心に求めたのである。おそらく、われわれは自分が病氣や事故や老衰で死ぬなどということにあまり関心がなかつたであろう。そして与えられたこの世の生活をよるこんで受け、それに不平も、つぶやきもまた気まぐれな要求もしないで生活し、治めてゆこうと考えたであろう。われわれは時々前途に何が横たわっているか知りたいと考えるが、まじめに考えると、一日一日を受け入れて、その日を高めて輝かしい日とする必要を感じるのである。

若い兄弟姉妹、人生は、それをよくおさめて、自分のものとする時に、すばらしいものとなる。人生は実に大きな機会であり特権である。神が、知識、知恵、信仰、働きを増すために、われわれすべてを祝福され、永遠の光栄へとお導きくださらんことをイエス・キリストの御名によって祈りたてまつる。



M I A を 知 っ て か ら

YWMIA 管理会長 フローレンス S. ジェイコブセン

予

言者ジョセフ・スミスに会う前のブリガム・ヤングはどのような人であったか。彼は2人の少女の父親、聖書の愛読者、勤勉なガラス工、ペンキ屋、指物師、大工、そして教会の新しい会員であった。それから彼は言者ジョセフ・スミスに会って靈感を受け、文字どおり一人の偉大な宣教師、開拓者、実業家、そしてその世紀の宗教指導者となったのである。

ジョン・テイラーが言者ジョセフ・スミスに会う前は少しは名の知られたメソジスト派の牧師であったが、ジョセフ・スミスから靈感を受けて、類まれなる宣教師、すぐれた編集者、事業の創始者となった。ジョン・テイラーはまた、教会の大管長にもなった。

同じこの偉大な言者に会う前のオルソン・プラットはどのような人であったか。彼は19歳の少年で、学校教育は少ししか受けておらず、9年間家もなくさまよい、パンを得るために、また身にまとうものを手に入れるためにあらゆる仕事について働いた。その後彼は21ヶ所で伝道し、16回大西洋を横断し、説教し、書物を書き、何千人もの人々を改宗させた。彼は宗教に関する、また科学に関する論文を書き、数学と哲学を教え、学校を設立し、開拓者の村をつくった。

1831年11月におけるオルソン・ハイドはどのような人であったか。彼は26歳で、町の小さな店の店員であった。彼は予

言者ジョセフ・スミスから靈感と力をうけ、その言葉をもって偉大な宣教師となった。1841年に金も紹介状も政治的援助もなしに、世界のユダヤ人の宗教指導者を訪問し、エルサレムのオリブ山上で、ユダヤ人がパレスチナに集合するよう奉獻の祈りを捧げた。これらの人々のうち幾人かは教会の偉大な人々であり、その名は教会にも世界にも知られている。これら数千人の人々すべてが教会において、社会において、あるいは世界的に必ずしも著名なわけではないが、彼ら個人個人の歩んだ道においてそれぞれ偉大なることを成しとげているのである。

キャロル・アンダーソンがMIAのグリーナーのクラスに出席する前はどのような人であったか。MIAのそのクラスの教師は大きなデパートの広告係であった。1930年のアメリカの不況はキャロルの家族に対して決定的な打撃を与えた。教育のための余分の金は全然なくなり、大学のあるところまで行くためのお金さえなかった。グリーナーの指導者は次のように提案してこの問題を解決した。「もしあなたが毎週土曜日私の家を掃除してくれたら私はあなたに広告宣伝の基礎的な技術を教えてあげよう。」

キャロルはその仕事をやった。グリーナーの指導者の約束は守られた。キャロルは次第に宣伝広告の分野においてすぐれた手腕を身につけ、名も売れていった。原稿係から広告業

者になるまで、すべてはそのグリーナーの指導者が世話してくれた。

12歳のビル・アンドラスが彼のスカウト・リーダーに会う前はどのような人であったか。ビルは、はにかみやで内気なはきはししない少年であった。ビルが今MIAの少年となりつつあるのはなにによるのだろうか。

14歳のサリー・ジェームスがMIAの女性の教師に会う前はどのような人であったか。サリーは非常に反抗的で、親しみがなく、つきあいにくく、そして不幸であった。そのサリーが今MIAの少女となりつつあるのはなにによるのだろうか。

MIAに出席する前のジェーン・クロウリーはどのような人であったか。ジェーンは悪の世界にはまりこんだ少年であった。彼女は不道德な酔っぱらいと麻薬患者の集団に誘われたのであった。ある日カナダから遠く離れたところでこの少女はMIAに招かれた。彼女ははじめこう考えた。「私は不道德と酔っぱらいと麻薬を知っている、他に何を知らうというのだろうか。」彼女はその招待に応じた。その日の夕方指定された時間に新しい友だちと腕を組んで、新しい人生に入るため、LDS文化ホールの光りかがやく光景の中に歩いていった。

ジェーンは開会の歌を歌い、そして考えた、「なんと上品なそして楽しい歌なのだろう。」彼女は祈りが捧げられたとき頭をさげ、天父と自分だけが一緒にいるように思えるこの美しいひとときに感謝して少しばかり彼女自身の感謝の言葉をもその祈りにつけ加えたのであった。人々が立ちあがり、確信に満ちた声で、モルモル経のニーファイ第1書3：7の聖句をくりかえして朗読した。「私は主が命じたもうことを行って行く。私は、主が命じたもうことには、人がそれを為しとげるために前以ってある方法が備えてあり、それでなくて

は、主は何の命令も人に下したまわらないことを承知しているからである。」

その晩はずうとところよい音楽が流れ優雅なダンスが行なわれていた。幾人かのすてきな清潔な若者がジェーンをダンスに誘った。空気はさわやかで光は暖かい色彩を投げかけていた。彼女のパートナーはきちんとした服装をし、その魅力的なリードで彼らは一体となっていた。「私は世界中にこんなすばらしい場所があるとは信じられないくらいです。」と彼女は言った。

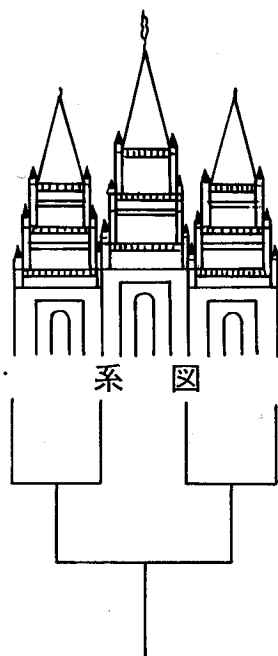
MIAはジェーンにとって新しい世界への第一歩だった。彼女が証詞を持った最初の場所がここであった。そしてそれは大きく育っていった。何回もMIAにつどい、何回も宣教師との集会に出席し、祈りと断食の後ジェーンはバプテスマを受けた。彼女はMIAで永遠の伴侶にあった。彼らは神殿で結婚をした。今や彼らには4人のかわいい子供があり、福音の計画にもとずいて成長している。

ジェーンがMIAを知らなかったら今ごろどこにいたであろうか。

ジョセフ・スミスがもっていた、教会の偉大な人々を動かす力は何であったであろうか。MIAがもっていた若者達の生活を良くする力は何であったであろうか。答は「イエス・キリストの福音」であり、それは靈感の基礎である。それは若い男女に力と熱意と、現世において彼らが召された仕事をなしとげるならば義なる天の神は彼らを祝福するであろうという確信である。MIAは生活を改善させるのである。

すべての少年少女は神から与えられた可能性をもっている。少年少女がみな福音の計画を学び、それを活かすことにおいて喜びと幸福を感じ、永遠の結婚の準備をし、子供達が主を愛し、彼らのためにこの世が備えている喜びと祝福を受けるようにしむけることこそMIAの目的である。

MIAでは家族で鑑賞する劇として上演するのに適当な短編及び長編の脚本を出版するために目下検討中です。LDSの標準に合ったもので、特定の国または地域の言語や文化をもちこんだ内容のものが考慮されます。『百年祭』(MIA創設百年記念祭)で上演するためにほとんどすべての少女がキャストとして出演できるような脚本を急募しております。版權は当方で購入いたします。適当な脚本がありましたら次のところまでお寄せください。MIA Drama Committee, 79 South State Street, Salt Lake City, Utah 84111, USA



神の子

聖 典には、先祖と血統をさかのぼるのに非常に役に立つ
 沢山の聖句があります。特にある一節では、神の子と
 してのアダムに係図が書いてあります。(ルカ3:23~38)

私たちはすでにペディグリーチャート(系図)の役目と、
 どういう風にそれが先祖たちからわれわれ子孫までたどるの
 に役立つかを論じました。今引用した聖句は、われわれの父
 祖アダムに対して同じことを示しています。われわれは今や
 父たちの家族を見つけることや、また彼らに、主の家におけ
 る儀式をすることなどに直面しています。その儀式は、私た
 ちが今主の教会で享受していると同じいろいろな特権や機会
 などを先祖たちに与えるものなのです。

私たちの家族の名前を集めて書き込んだものを、ファミリ
 ーグループシート(家族の記録)と云います。

その書式には、少しの違いはありましたが、1924年頃に明
 らかになり、基本的には、私たちが今日、用いているものと
 同じものです。この書式を用いる目的は、家族が昇栄の単位
 であり、家族の生活は、神の生活であるということな ので
 す。この書式でもって私たちは、なされるべきことが家族の
 あるものについてなされたか否かまた、妻を夫に、子供たち
 を両親につなぐ、結び固めの儀式が終わったか否かをすぐに示
 することができます。結び固めの儀式こそ、家族を一緒にし、

永久に一つにするものなのです。疑いもなく、働きが進むに
 つれてまた私たちが喜んでうけ入れる際に、主が多くの光と
 知識を通して、私たちに祝福を与えて下さいます。家族の記
 録は、その効用が変わったり家族を単位として認めるのに他
 よい方法がみつければ、変わる事があるかも知れません。私
 たちが紙とインクを用いることは、仕事の始めであって天の
 父が、永遠の祝福を下さる道具であると云うことを常に心に
 とめていなければなりません。人に不死不滅と永遠の生命と
 をもたらすことが、主の御意志であります。(モーセの書1
 :39) 主は、主が指し示すいろいろな方法でそれをなしたも
 うのです。

ブリガム・ヤング大管長は、「家族の記録」にのっていな
 い復活した人たちが、われわれの先祖の多くの名を連ねた名
 簿を持って来て、系図の働きを彼らのためにして欲しいと頼
 んだということをはっきりと述べています。(ブリガム・ヤ
 ング講話集1961年版409頁)。啓示は、私たちの仕事を更に導
 きますので、このようにして、私たちは家族の記録によって
 この事がなされる事がわかります。

もし、私たちが完全な昇栄を得ようとするならば、主は次
 の三つの儀式が必要であると指摘されました。

(1)バプテスマ、(2)神殿でのエンダウメント、(3)結び固め。

結び固めは、妻が夫に子供たちが両親に結ばれることから成っています。

おそらく、家族の記録を使い始める最初の段階は、あなた自身の家族員のためでしょう。記録に要求されている適切な事実を、あなたの名に関して全部記す事は、多くの場合むづかしくはありません。次に、妻と子供について同じことを、記すこともたやすいことです。あなたは家族の記録が進められるにつれて、家族の単位が、新しい大きさを帯びて来るのに気付くでしょう。まもなく、あなたの記録が完全で正しいものになると、あなたは同じ記録を両親について、すなわち兄弟たちが子供として含まれる記録も作らなければならないことに気付き始めます。これは、あなたの妻や夫についても同様であります。このようにして、私たちの前に先祖全部の完全な家族単位を含む記録が展開して行きます。これによって私たちは祖父たちや祖母たちばかりでなく、彼らの子供をも、また正しく見分けることができます。私たちは、見ただけで記録が正しいばかりでなく、完全なものにするために、どこに注意して仕事をしなければならぬかがわかります。

家族の記録は慎重に作成してください。あなたが記す情報が、正しいという事を確めてください。可能な場合は、原籍を探し、家族の話が真実か否かを調べて確めてみてください。すなわち、話が事実であることが確かだと思うまで、その話を吟味してから、ファミリーグループシート（家族の記録）にそれを記入してください。

あなたの働きに後で、役に立つと思う1つの項目は「情報の出所」と記したシートの下の方にある欄です。ここに、あなたは、情報を入手した場所を記録しなければなりません。それは、あなたの将来の探究の際に、値踏みできない価値があることを経験します。あなたは、自分がその探究で得たものと場所を知ることができます。おもてに十分な余白がない時には裏面を用いてください。これこそ、あなたの記録であり、何年にもわたって仕事を続ける場合に、その文書の出所が、あなたの記録に必要な情報にとってかくことのできないものであることが分ります。しかも、あなたが、以前に調べた出所をまた探すことは、時間と労力の無駄でありましょう。このために、「情報の出所」と指定された場所を用いることは必要です。

天父が、予言者を通して、私たちに要求されたものを、私たちが理解しているか否かを見るためのチャレンジとして、私たちが家族を招いて家族の記録を書く「家族の集い」をも

うけましょう。子供たちは、出生場所とか生年月日を書き入れることで助けができます。あなたが家族の記録を完成したなら、彼らがあなたの子供であり、すべての人々と同様に天父の子供たちであることを示すために自ら調べさせなさい。子供たちに神がこの世の王の王となり、主の中の主となった時に、私たちが神の息子及び娘たちであることを示す記録を私たちが持てるように、教会の記録に記される記録をもつことが、どんなに大切であるかを説明してください。

ファミリーグループシート（家族の記録）の数がふえるにつれて私たちは非常に多くの記録をどのようにして保存するかの問題におつかります。もし、あなたの作るすべての記録を保存したいなら、夫の苗字でアルファベット順に備えるのがもっとも簡単な方法でしょう。これは、最少の時間で、記録を見つけられる簡単な方法であります。多くの方法が発達して来ましたが、あるものは販売されました。しかし、教会はこのような計画をうけ入れたり、それら1つをも推奨はしませんでした。

現在では、ファミリーグループシートは神殿の仕事のために系図協会に提出され得る唯一の記録であります。それは、他の記録が悪いと云うためではなく、記録が協会の記録係に受けとられ、調べる時に統一が、たもたれるためであります。これは時が来てよりよい方法が考えられるなら変わるかもしれませんが。とにかく私たちは、統一された記録を保存するように、公認の書式を用いています。もし急にいろいろな形の記録の提出が許されたならばいろいろな種類の記録が受けとられ、それらを保存したり、複写したりする方法が非常にむづかしくなるでしょう。あなたの家に保存してある記録には、後程あなたの記録を理解し読まなければならない人々に対してそれが理解可能で読みやすいものである限り、どんな形のものを使ってもかまいません。

もう一度私たちは、これが私達の永遠の父である神の仕事であるということを強調いたします。この仕事は昔の予言者が人々がよろこんでうけることを期待し、望んでいたことを示現の中で見ていたものであります。使徒パウロは次のように云っております。

「さて、これらの人々はみな、信仰によってあかしされたが約束のものは受けなかった。神はわたしたちのために、さらに良いものをあらかじめ備えて下さっているので、わたしたちをはかにしては彼らが全うされることはない」（ヘブル11：39～40）

今月より2回にわたって第138回年次総大会における大管長会の演説が掲載されます。



主は甦りぬ

大管長 デビッド O. マッケイ

(1968年4月5日金曜日 ソールト・レークタバナクルにおいて開催された第138回年次総大会において、開会に際し子息ディヴィッド ローレンス マッケイによって代読されたものである)

わが愛する兄弟姉妹、およびラジオテレビの視聴者の方々、今私の心には一つの大きな願いがある。それは主の「みたま」とこの大いなる大会のみたまを、この大会の全世界向放送の及ぶところすべての教会中の人々が、家庭がそして全世界が感ずるようという願いである。

この集りのみならず、第138回大会のすべての集りを通じて主の「みたま」があるよう祈り奉る。

私の心は、神がその子供たちに下された大いなる愛と祝福への感謝に満ちている。年を経るにつれ、私はイエス・キリストの福音の偉大なる可能性と機会に、いよいよ心を打たれ感謝の念がいや増すのである。

この教会の会員たちの忠実さ、信仰、兄弟の愛、そして祈りを感謝申し上げる。今朝この大会に言葉を送る責任を果たすにあたり、主の導きと大方の兄弟姉妹の祈りと信仰を切に乞う次第である。

百年前、我らが開拓者たちにより、このテンプルスクエアに建てられ、古い歴史を誇るタバナクルに集うすべての人々に、あるいは、ラジオ、テレビで聞いておられるすべての人々に、心からの歓迎を申し上げると共に、神の恵みが、各自に豊かに注がれるよう祈ってやまない。

さて、4月14日は全キリスト教国を通じ、歴史上最大の出来ごと、イエス・キリストの復活が祝われる。パウロはこの

事を次の如く述べている。「もしキリスト甦り給わざりしならば我等の宣教も空しく……かつ我等は神の偽証人と認められん。」(1コリント15:14, 15)

愛に満ち給う贖い主をこのように証しできる者こそ、自分の霊と身を永遠の真理につなぎとめる者である。現代において、キリストが墓からよみがえり給うた事を最も直接的に証しするものは、この復活祭が祝うイエスの復活であって1900年後、予言者ジョセフ・スミスに天父と御子とが御現われになったことであった。人の霊が死の門を通過して永遠の生命に勝利を以て移って行くことは、救い主キリストの輝かしい教えの一つである。キリストにとって、現世は一日に過ぎず、その終りは生命の日没であり、死は眠りであり、そして永遠の御国への輝かしい目覚めへと続くのである。マリヤとマルタがその兄弟の死体となって暗い沈黙の墓に横たわるのを見ていた時でさえ、イエスはそこに生きている人を見たのであった。その故に彼はこのように云われたのである。「ラザロ眠れり。」(ヨハネ 11:11)

十字架にかゝり給ひしキリストが、事実三日後に墓から甦り給ひ、すなわち、霊界で他の者とお交りになった後、その霊魂が再び刺され給ひし御体を活かし、40日間人々の間にとどまられてから、栄光を以て天父の御許へと昇天されたことを、復活祭の礼拝に集う者すべてが知ったなら、今疑いにな

やむ人々に、どんなにありがたい平安が訪れることであろうか。

初期のキリスト教の基は、復活の存在についての信徒たちの確信の上に建てられたのであった。4000年以上もの間、人間は墓をのぞいては生命の終りを眺めてきた。墓に入った何百万の中、誰一人として戻って来た者はなかった。「世界中に一つとして空の墓はなく、人類の大いなる敵、死よりも強い力によって開かれる墓のことを告げる人の声も、それを信ずる人の心もなかった。」

故に、女が恐る恐る、しかし愛を以てイエスが葬られた墓に近ずいた時、天使から聞いた言葉は、新しく輝かしいおとずれだったのであった。

「汝は十字架につけられ給いしナザレのイエスを尋ねれど、既に甦りて、此処に在らず。」(マルコ 16:6)

奇蹟が人智を超えた超自然的出来事ならば、イエスの復活はすべての時代にわたり最も驚くべきものであった。そこに神の全能と人の不死不滅があらわされているのである。

復活が奇蹟であるというのは、それがただ人智の及ばぬものだからである。それを事実として受け入れるものにとって、単に生命の一定の法則の現われにしか過ぎない。ただそれが理解できぬ故に奇蹟と呼ぶのである。いつの日か、人智に光が与えられて、この偉大なる事象が神秘の闇から理解の光にさらされることであろう。

キリストを親しく知っていた弟子たちにとって、墓からの文字通りの甦りが事実であったのは確実である。弟子たちは事実の証人であった。彼らが知ったのは、己が目で見、己が耳で聞き、己が手で復活した主の御体にさわってみたからであった。

イエスの死に際して、使徒たちは悲しみに打ちひしがれ、その望みもすべて消え果てた。彼らの烈しい悲しみと、本格的な埋葬の準備は、イスラエルの贖いを失敗と思っていたのではないかとかわせる。

キリストが何度も、死後また必ず戻ってくると言われた御言葉ははっきりとは理解されていなかったようであった。十字架にキリストがつけられ給うた時、彼らは恐れ戦き、二年半の間キリストとの交りによって高められ、靈感をうけていたのに、今やキリストは去られ、彼らだけがとり残されて、無力でおびえていた。ただヨハネのみ十字架の傍に立っていた。

この日の使徒たちのような不安定な疑いと絶望に満ちた人が世界を動かすなど論外であった事だろう。

この使徒たちを突然、確信に満ちて恐れを知らぬ勇ましいイエス・キリストの教えの宣教者に変えたものは一体何か、それはキリストが復活し、約束が成就され、救い主としての使命が果たされたという啓示であった。ある著名な文筆家の言を借りれば、「その主張が真であると、決定的に証明され、その教えが神の権能をもった教えであるとの消すことのでき

ぬ印が押された。甦り栄光をきせられた救い主の御前の輝かしい光によって、死の闇は払われたのであった。」

復活の信仰は、そのゆるがぬ基礎をこれら何らの先入感や期待などを抱いていなかった目撃者の証詞の上に建てられているのである。

イエスの墓が空だった事について三つの明確な徴がある。すなわち、(1)弟子たちが霊的に、また業績において大いなる変貌を遂げたこと。(2)福音書に記されている古代キリスト教徒らの一般的信仰、(3)新約の最古の著者パウロの証詞である。

時満ちたる神権時代の冒頭に当って、14才のジョセフ・スミスは言った。

「私は筆紙に尽し難い輝きと栄光とを持ち給う二人の御方が私の真上の空中に立ち給うのを見た。そしてその中のお一人が私に言葉をかけて私の名を呼び給い、他のお一人を指して「こはわが愛子なり、彼に聞け」と仰せられた。(ジョセフ・スミス 2:17)

この示現が事実であることを証して、彼は後に次のように言っている。

「私は示現を受けたのであるから、それが事実であることを身を以て知っている。私は神がそれを知りたもうことを知っている。私はそれを打ち消すことはできなかった。また敢て打ち消そうとしなかった。私は少なくとも、本当にあったことを打ち消すならば、神の怒りをうけて罪の宣告を受けることを知っている。(ジョセフ・スミス 2:25)

古へのキリストの十二使徒の確固たる証詞を確証しつつ、末日聖徒イエス・キリスト教会は予言者ジョセフ・スミスの輝かしい示現を次のように述べるのである。

「さて、この子羊に就きて為されたる様々の証の挙句、われらの為す最後の証はすなわち「主は実に生きたもう」ことはなり。

われらは、彼がすなわち神の右に座したもうを見たり。また御父の生み給う独子なりと証したもう声を聞けり。」(教義と聖約 76:22-23)

復活後数年を経たばかりの古代の使徒たちのこのように明確な証詞と、この現代に与えられた、キリストが生きてましますことの奇しき啓示とを以てすれば、キリストを否み、人の不死不滅を否定する事がどうしてできようか。

「いかでその道を知らんや。」とかの裏切の夜、最後の晩餐の後、主と十二使徒たちと座っていたトマスが尋ねた。「我は道なり、真理なり、生命なり。」(ヨハネ 14:6)と主は答えられた。正にしかり、主は慰めの源、生命の靈感、救い主である。神との関係を知りたければ、イエス・キリストの許へ行くがよい。人の魂の不死不滅を知りたければ、救い主の復活という大いなる例がある。

人々の中で営むべき理想的人生を知りたければ、イエスの生涯はその完全な例である。気高い望み、生活の理想が、い

つ、何であったとしても、イエス・キリストを見れば、完全にわかる。同じく、道徳の標準を求めるならば、ただナザレのイエスの中に、完全な人間のあらゆる徳が備わっている事がわかるのである。

この完全な性格を形成している徳は、**真理、正義、知恵、慈悲、自制**であった。イエスの考え、言葉、行いのすべては神の律法にかなう、故に真である。イエスと天父との間の連絡はいつも開かれ、啓示に留る真理はいつも知らされていたのである。

イエスの公正の理想は次の言葉につづく。

曰く、「さらば凡人に為られんと思うことは人にも亦その如くせよ。」イエスの知恵は深く広く、人の習わしと神の目的とをよく理解していた。しかし、使徒たちは必ずしも、イエスの最も簡単な教えの意義さえ理解したわけではなかった。

律法学者は討論でイエスをわなにかけたりして打負かそうと図ったが、無駄だった。イエスの前では偉大な学者も小児にしか過ぎなかった。短かくはあったが、しかし波らん富んだイエスの生涯の行い一つ一つはすべて愛に満ちていた。その自制は、自身の欲望をおさえた時も、迫害の前にあって品位や平静を保った時にあっても、完全であり、正に神のそれであった。

さて、これらの徳とその意味を教会はどのように教えるのであろうか。人間の真実も、道徳的人間をつくることもできない教会は、存在理由がなく、キリスト教会というふりをして茶番にすぎなくなる。

真理を愛さずして、当教会の真の会員たり得ない。真実たることは教会の根本的教えであり、その意味を考える時、人格形成にそれが果す大きな役割を覚えるのである。真実なる者は高潔で良心的で、すべての行いが立派で義務を忠実に果し、信頼に値し、務めに勤勉であり、自己に誠実であり、また故に、兄弟たちにも、そして神にも誠実である。

正義公正に関しては、教会の教えはすべて不正を憎み、己が兄弟を圧迫する者は、大いに責められるのである。「天の能力は正義の原則によりてのみ支配し運用し得るものなり。」(教義と聖約 121:36) この故に会員は自分の権能を正しく用いねばならない。正義公正は万人に正しく報いる。公正のためには当然正直、公平で、かつ礼儀正しく尊敬の心がなければならない。人間は公正であるのに、尊敬の念を欠くということはない。尊敬の念を欠く人は、当然の尊敬を示さぬ故に公正たり得ないのである。真の人間は公正であり、それはやがて、神の御性質に通ずるのである。

正直は公正の中に含まれるが、教会の信仰簡条第13条中の最初に挙げられている。人間たる事に不正直はそぐわない。自己に公正であるために、先ず、自己にそして他人に正直でなければならない。これは言葉と行いの両面にわたってであり、いつわりと同じく、物事の一面のみを述べることもなく

またこれは売買などの商売にも同様である。正直な負債は法律上の効力を失わず、口約束は証文にまさる。また主との交りにおいても正直たるべく、「真の正直とは、人の要求と共に当然神の要求する所も考慮し、神のものは神に、人のものは人に納めるのである。」

知恵「汝ら努めて求め、互いに知恵ある言葉を教うべし。然り、汝ら最も善き書より知恵ある言葉を探し求めよ。(教義と聖約 88:118) これは現世代に予言者ジョセフ・スミスを通じて神がお与えになった誠命であり、神の最大の賜である永遠の生命が人間の知識に依る所大であることを考える時、その意義がより深く認識されるのである。すなわち「人は無智にして救われることを不可能なり。」(教義と聖約 131:5) 知恵とは知識を正しく用いることであり、判断、眼識、思慮分別、研究心などを含む。「知る事は賢明なるにあらず。多くの人は多く知るが故に愚かなり。物知れる愚かな者ほど愚かなるはなし。知れることをば如何にして用うや、これを弁うこそ智恵者なれ。」とスパージョンは言っている。

慈悲は、完全な意味において高い道徳の究極であり、すべての他の美德を含むものである。慈悲心によって、人に善をなす心を起し、キリストのための生活をする気持を抱く。親切、克己、献身、寛大、慈善、愛などはすべて、この神の性質から発する。「我らは慈善を信ず」と言う時、キリストのような性格を形成するすべてを信ずるのである。愛の人は自らの家族に対しても思いやりがあり、誠実である。また社会のために働き、教会内でも忠実に働く人である。

今まで述べた美德は皆偉大ではあるが、しかし、**自制程**、毎日の生活に役立つ実地的なものはない。日光と昼とを分けて考えられないように、自制を道徳的人間と分けて考える事は不可能である。自制とは、生れながらの欲望、情慾、愛着心などを治め制することであり、これ程人に自己征服感、すなわち、自分の欲望をしもべとし、決して自己はそのしもべにならない、という感じを与えるものはないのである。これに含まれるものには、節制、禁欲、勇気、堅忍、希望、穩健、純潔、独立、寛容、忍耐、柔和、貞節、潔白等がある。この原則についての最も実地的な教会の教えに知恵の言葉がある。この日常の実行程、真の道徳的人間を築くのに役立つものを私は知らない。それは真である。それは主に欲望と関係がある。酒、煙草、麻薬などの誘惑を退け、自分の欲望を制する事のできる人は、自らの情慾をも制する事のできる人である。近頃高校生や大学生などの間で、麻薬が広く用いられていることを読み、私は大いに心を憂える。このサタン誘いに屈すれば、やがて男たり、女たる誇りを失うに到る事を教会のそして世の若人たちに心から警告したい。ひそかにであらうと、公けにであらうと、自らの欲望に溺れる者の力は情慾の誘惑に会えば、決して役には立たないのである。

今日の世界の性的不純は、欲望に溺れて真の人間としての力を失った結果であって、不純な想いは不純な言葉を生み、不純な言葉は不純な行いを生む。教会の教えでは、殺人の罪

の次の罪は姦淫であり、性的不純である。教会員が純潔への信仰に忠実であり、また他の面においても自制によって真の人間の勇気を養うならば、この罪に染った世を輝き貫く光となるだろう。

今日のこの乱れた世にあって、世の人も、教会の人も多く心を痛み、予感に憂えている。キリストが十字架にかゝられた時、今日のそれと同じく、かつて暗い予感に満ちた未来に直面する少数の人々がいた。キリストの地上での勝利に関する限り、彼らの未来は暗いものでしかなかった。彼らは「人を漁る者」として召され、聖別され、そしてペテロには御国の鍵が渡されていた。にも拘らず、この落胆のさなか、昔の漁師に戻った失意の十二使徒の頭ペテロにイエスは言われた。「ヨハネの子シモンよ、汝この者共に勝って我を愛するか。」ペテロは答えた。「主よ、然り、わが汝を愛する事は、なんじ知り給う。」主は言われた。「我が羊をかえ。」(ヨハネ 21:15) この時、人を漁る者としてと同じく、羊をかう者としての責任をペテロはさとしたのであった。この時初めて彼はイエスが言われた言葉「我に従え」(ヨハネ 21:19)の意味を完全にさとしたのであった。その決して消える事なき光を以て、これら謙遜な十二人は人間関係を改革したのであった。

イエスの教えは個人間と同じく、団体間にも国家間の問題にも応用して効果がある。真の人間としての勇気を養うために、キリストを道とし、真理とし、光として受け入れねばならない。キリストは人類の光である。その光の中に人は未来を明らかに見得るが、しかしそれを否定すれば、人の魂は暗黒につまずく。個人が、国家がその光を消し、キリストと福音が密林の掟と劔の力でおきかえられるのは悲しいことである。今日、世界最大の悲劇は、神と神の善に対する不信仰である。

最近ある科学者が神への信仰について述べた下記のものを讀んだ時、私の心は喜びに溢れた。

「科学的現象を、公平に、かたよらず研究してみても、私は神の存在を、そして神による宇宙の支配を確信するに到った。中心的支配力が存しており、しかしてそれは神である。科学者としての私が達した神と宇宙についての結論は聖典に確証されている。私はこの聖典を信じ、宇宙の初めについてそこに書かれてあることをすべて信ずる。聖典と科学とは一致する。すなわち、聖典を正しく、明確に解釈したならばである。」

(アール チェスター レックス ワシントン大理学修士 数学者、物理学者、ジョージ ペッパーダイン カレッジ准教授、チャーチ ニュース 1967年2月18日)

またある人は言う。

「科学の世界に私は何時も絶対的なお方の計画、法則、秩序をみる。私は神を信ずる。私の信ずる神はこの宇宙を作り支える全能の神であるばかりではなく、その創造物の最高のもの、すなわち人間に関心を向けられるお方である。」

(セシル ボイス ハーマン パーデュー大学哲学博士、アシュベリー大学生物学教授兼数学理学部長、オークリッジ原子核研究所研究員、デセレトニュース 1968年2月24日)
更にまたある人は述べている。

「人が神の存在を信ずるようになると、必ず何か行いに現れる。一個の人格としての神への信仰は、人として周囲に対する態度、人生に対する態度、そして物質界の背後にある動機や目的に対する態度を変えさせるものである。」

(ウエイン U. アルト コロンビア大学哲学博士、地球化学者、米国政府内務省地質調査局、チャーチニュース 1968年2月10日)

福音、すなわち大いなる喜びの楽しき音信は、人間の真の導きであり、その教えに最も近く生きる時、人は最大の幸福と満足を得る。福音の教えの反対は憎悪、迫害、暴政、権勢不正であり、これらは困難や破滅、死を世界中に育てるのである。この世で更に高く良きものを得ようと苦闘している者にとって、福音は、丁度、冬から逃れようとしている大地にとっての青空の太陽のようなものである。

「人みな汝を尋ね」(マルコ 1:37)

と贖い主キリストに言える時は、何という輝かしい状態がこの古き世に生れることだろうか。その時こそ利己心、ねたみ、憎しみ、いつわり、ぬすみ、あざむき、不服従、あらそい等が諸国間から消えることであろう。

兄弟姉妹よ、私が幼少の折から胸に抱いていた真理は、神は個性をもちたもう存在であり、祈りによって答をいただける天父であるということであった。復活の主に対する私の証詞はトマスのそれに劣らず真実である。復活後主が弟子たちにお現れになった時、トマスは「わが主よ、わが神よ」と言った。私も神が生き給うことを信ずる。イエスこそ肉にて顕わされ給いし神であり、また「天の下には我らの頼りて救われるべき他の名を、人に賜いしことなければなり。」と信ずる。イエスは愛と義とを以て求める者に助言を賜う。私自身イエスの御声を聞き、この地上での神の国について導きをうけているが故にこれを知っている。またキリストの父なる我らが創り主も生きてましますを知る。御二方は予言者ジョセフ・スミスに現れ給い、現在教義と聖約などの教会の聖典にのっている啓示をお与えになった。この知識は、日常生活の出来事の如く、私には現実のものである。夜、床に就く時、翌朝また再び太陽が昇って地を輝かしく照らす事を確信する如く、キリストがまします事を、この回復された教会が神のものであることの知識もそのように私には身近なものである。

末日聖徒イエス・キリス教会の会員は、地上唯一の完全な御方、罪の汚れなき人の子を自らの理想としなければならぬ。

願わくば、神の恵みが教会にあらんことを、特にその標準を守る若人に祝福あれ。若人の心に信仰を植え、全世界にそれを伝える父母たち教師たちに祝福あれ。イエス・キリストの御名により祈り奉つる。アーメン



備 え あ れ

第一副管長 ヒュー B. ブラウン

(1968年4月6日(土曜)の夜ソルト・レークタバナクルにおける神権会大会での演説である。)

神権をもつ兄弟たちよ、今晚われわれはこの由緒あるタバナクルに集い、また合衆国、カナダを通じ、幾百の場所に集っているが、これは疑いもなくこの福音の神権時代最大の神権会であり、また更に多くの人々がテレビ放送でこれに参加しているのである。

われわれがここに集うのは当教会をお建てになった頭たるイエス・キリストの御名によってであり、その神たることを謙って証詞するものである。

神の予言者デビッド・O・マッケイ大管長の指示の下、大管長会是一个の勧告を発するのであるが、その主な対象は、若人、成人すべてであり、結局全教会員またいたる所の仲間たちである。しかし、特にこれは少年期と成年期の間の、興味に富むが、しかし困難な青年期の人々のためである。青年期は少年時代のきびしい制約を脱してはいるものの、成人の責任を完全にうける用意はいまだできていない。

心すべき事は、自分の目的は人の先に立つことではなく、己れに克つということである。そして、今日只今、自己の理想像に近づく努力をなすべきことであり、今日と未来に横たわるすべての日々をして、永遠の意味を持つ人生となすことである。あくことなき学問への欲求を養うことである。

また若い人々にしばしば言うて来たことであるが、大人になっても笑いを忘れないことである。健全なユーモアの感覚は安全弁のようなもので、重大な問題を軽くし、また汗と涙がとき得ないような問題解決にしばしば役立つ事を知るのである。箴言の一節は次のごとく言っている。「心のたのしみは良き薬なり、たましいの憂いは骨を枯らす。」(箴言17:22)

今日の社会は移り変りが激しく、その挑戦は複雑かつ烈しいものである。現代は原子力時代であり、種々の動きや革新的変動が絶え間なく続いている。新しい世界、幸運であると同時に不吉な世界が全く突然かつ抗し難い力を以て開けつつある。時代の要求は未来への対処であり、当然の犠牲であり、その報いと貴重な特権であり、変化の普遍的律法への適

応である。

そのために先ず第一に大切なことは「備えあれ」である。常に備える事、重大な寄与を期待されるべき未来のために備え続けることである。そして人生の戦いを支えるのは人の知識である。

ここで言う準備とは教育に外ならず、それには、必然であると自由であるとを問わず、規律が伴う。高校卒業後の進路の問題は皆が直面し解決せねばならないが、決断と熱意を以て当らねばならぬことである。勇気と力が支えるならば、その答えは人生の残りの生き方を大いに決めることであろう。この故にそれは重要性を持っているのである。

しかし、いつも誘惑や邪魔はつきものであって、巧みなさやきが知識の探究心をすてさせ、危険な廻り道へと誘う。時として魅力的ではあるが、しかし常に偽りでありかつ魂の破滅につながる誘惑にのって、神が人間のためにならないと仰せになった事をしないように気をつけねばならない。

宗教的動機によるのではないが、この普遍的な敵を攻撃してインガーソルは次のように述べている。

「確かにアルコールは、それを造る者、売る者、飲むものの道徳をある程度退歩させる。醸造所を出てから罪と死と不名誉の地獄に空けられる迄、それに触れる者すべてを墮落させる。これを考えると人は皆酒の悪を強く感ずることであろう。この死の流れの兩岸に累々と重なる残骸、自殺、発狂、貧困、無知、困窮、絶望に泣く妻たちの色あせた衣服にすがりついて食を求める子供たち、破滅した天才たち、この悪魔の水が創り出した幻想の蛇と格闘する何百万の人々、これらを考えてみるだけで十分であろう。また牢獄や養老院、刑務所や絞首台を考える時、思慮深い人なら必ずや、このアルコールという悪魔的なものに反対する事であろう。」(ロバート・G・インガーソル—アメリカの作家)

ある学校などで流行している麻薬の不当な使用は決して有益なものではない。麻薬は魂を高揚させるという人もあろう

が、アル・カップが、その漫画の中で次のように言っている。「マリホアナやLSDの魂の高揚は、爆弾による都市の高揚のようなものだ。」シカゴ大学のロバート M. ハチンズは言っている。「私の心配は未来の経済事情ではなく、諸君の道義的品行である。人生で直面する最も油断のならない恐るべき危険は腐敗墮落の危険である。」

「高き真理より落つる毎、
魂はむ過ちの毎、
魂孤独の闇にさまよい、
旅路の果はいよいよはるか。」

収獲の律法は冷酷であって、種をまくそのまゝに刈り取るのである。有害な物質を摂取すると、それだけ目的への進歩はおくれるのである。

各世代が後継者に対する、そして各自が自己に対する最大の義務は教育であるとは、教会が専ら認めてきたところである。人間各自、神より与えられた永遠の英知の存在である。故に常に探究心を活発に働かせて、自分自身、周囲の人々、宇宙、天父なる神などすべて可能な事を学び続ける事が肝要なのである。予言者ジョセフ・スミスはかつて曰く、「人救わるゝためには、凡ての敵に打ち勝たざるべからず、而して無知は大いなる敵の一つなり。」彼の教育に対する深い関心は、米国最初の成人教育すなわち、「予言者の塾」を創設したことによっても知られる。

災難を逃れて行った聖徒たちは、神殿建設や回復された福音の伝道に忙殺されてはいたがすべて天と地と地の中にあるもの（一般的知識）、過去の事柄（歴史）現在の事柄（時事問題）、来るべき事がら（予言）、国内、国外の諸事情、国々の戦争や混乱、地にある審判、諸国の知識などを学べという主のすゝめを予言者を通してうけたのであった。つまり、それは非常に幅のひろい包括的な教育であった。

絶えまない迫害や追放、荒地開きの苦労にもめげず、昔のモルモン開拓者は、思想に教育に常に最高峰を目指した。荒野横断に当たっても、多方面にわたる書籍、図表、教科書等を運んだのであった。

教育熱心の一つとして、ユタ到着後、直ちにデゼレト大学を建てたが、これは後のユタ大学の前身となった。そして間もなく更にブリガム・ヤング大学、リックス・カレッジ、その他三十に及ぶ教会の学校を作った。その指標はカール G. メーザー教授にブリガム・ヤングが与えた言葉、「神のみたまなしには、アルファベットや掛算さえも、要するに何も教えない」ということであつた。

最近、教育問題について大管長会是一个の声明を発表した。「教会員は、殊に若人たちは、大学教育、または、十分な職業的技能を身につけるよう教会は長い間すゝめて来た。」

急速な発達を遂げるこの産業界にあって、教育はいよいよ欠かせないものとなって来た。若い人々は十分訓練を経なければ、将来立派な有益な職につくことはできないであろう。「教育や訓練を必要としない職業は年々減少しており、

やがては全くなくなるであろう。それ故、若い人々が高等学校以上の正規の何らかの高等教育をうけるようにすゝめるものである。同時に重要なことは、各個人の関心、才能、目標などを十分考慮した教育機関の選択である。」

未来のため最良の教育機関を選ぶためには、指導助言が必要である。先ず両親の助言である。両親程子供を一番よく知っており、人生の成功に必要なものをよく見通している者はない、子供の関心に深い配慮をし、子供の幸福を自己の最高の幸福とする自分をかえりみない愛情で子供を愛している。また、子供たちは多く経済的に両親の世話になっている。

次の助けは教会の指導者からである。指導者は多く各方面に経験が深い人々であつて喜んで助言をしてくれ、また共に神の導きを祈ってくれるであろう。

教会の教育機関の教師たちも教会教育機関への理解と参加を助けてくれるし、専門訓練をうけている教師たちは、各々の分野において助言をしてくれる事であろう。

しかしながら、最終決定を下すのは結局自分である。他人に相談し、試験成績をしらべて平均点を出し、自己と能力をよりよく知り得て尚かつ、すべてを評価し、最善を求め、熱意と勇気とを振り立たせて、不変の最終決定をせねばならない。しかし最も重要なことは、自分の業績ではなく、絶えまなく挑戦し、かつ靈感を与える仕事を漸進的に立派に追求して行く能力なのである。

技術系の大学ないしは職業訓練学校へ行く事にするかもしれないが、こゝでもまたこの工学時代は完全なる準備（教育）を期待しているのである。

ブリガム・ヤング自身、画家であり、またガラス細工をよくしたが、かつて述べている。「教育は私の信念であるが、頭脳の教育と同じく、手先の技術も身につけてもらいたいものである。」技術系の学校でうける訓練には、製図、電子工学、農業工学、秘書及び事務技術、写真学、電子計算機プログラミングなど、また他の多くがある。その課程は数ヶ月から数年と様々であるが、その終了と共に卒業、修了証書が与えられる。

軍務に服する間も好きな分野で訓練をうける機会がある。

多数の専門学校は美術、音楽、演劇、舞踊、電子工学、商業、重機械運転に到る迄いろいろと訓練する。この殆んどは良心的なものではあるが、その選択には十分留意して、自分の選択が、関心と適性のある分野で立派に教育を与えてくれるものを選ばねばならない。

ある会社などは高校新卒の人を採用して、初任給を与え実務訓練をするが、これとても多くの場合、単に一手段にしかすぎない。適性を持ち、野心と意気に燃える人々は大学教育以上に進んでもらいたいものである。若人は自分の能力以下を目指してはならない。明日の世界が必要とするのは、数式を運用したり、法廷で弁護に立ったり、疫病の治療法を発見したり、新しい進んだ農業技術を工夫したりする訓練をうけた人々である。

われわれが望むところは、更に意義深い学問的、宗教的、社会的教育をうけるように学徒たちを励まし、援助することである。

大学教育を希望する末日聖徒の学生総てが、教会関係の大学に入れる訳ではもちろんない。それ故、殆んど全世界にわたり、多くの大学の近くに宗教教育の場が設けられて来た。

「学生諸君がこれら教育機関に入り、一般的学問と宗教的教養と霊的経験とをより深めるよう吾人は強くすすめるものである。」

現在、大学教育環境に適した高度の宗教教育機関は185を数えるにいたっている。これらにおいて、学生たちは指導の行きとどいた社会活動や、靈感を与えられる祈りの会などに当たり、専門家のカウンセリングなどをうけられる。このような施設のない大学では、デゼレトクラブが作られ、その目的とするところは、教会の若人たちの団結と、最高の理想と標準に一致した社会的文化的経験を与えることである。賢明にして幸福な選択の鍵は、個人としての自己に最善のものを選ぶことである。それで、自己が生産的かつ役に立つ独立した教会ないしは社会の一員たる事に満足を感じるであろう。

ダビデは言う、「智慧は第一なり、智慧を得よ。凡て汝の得たる物をもて、さとりを得よ。」(箴言 4:7)

マッケイ大管長は言われた、「真の教育の目標は人格の形成であり、単に優れた数学者、有能な言語学者、偉大な科学者、大文学者をつくるのみに留らず、徳と節制と兄弟の愛に満ちた正直な人物を輩出するにある。真理、公正、智慧、慈愛、自制を立派な人生の最善の収獲とする人々を目的とする。」

老若を問わず、すべての教会員に覚えていただきたいことは、人生—現世及び来世にわたっての目的は、永遠の進歩の幸福を求めることである。神の栄光は英智なり。故に人は、全人教育を続けることによってのみ、その栄光に達し得るのである。主御自身ジョセフ・スミスに言われた。「およそわれらのこの世に於て達する英智の一切は、何にてもよみがえりの時われらと共によみがえるべし。さればもしある人ありて、精励従順によりこの世に於て他の人よりも一層勝れたる知識と英智とを得ば、未来の世に於てそれだけ利を得べし。」(教義と聖約 130:18-19)

故に、兄弟姉妹よ、肉体的に、精神的に、霊的に、道徳的に、美的になど、すべての点において未来に備えられたい。教会は会員すべての向上のためにあらゆる助けを惜しまないのである。繰り返して言うが、進んで価を払うならば、理想像は己がものとなるのである。

天父はあなたの父である故、あなたの中に天父の何かが必要ひそんでいるのである。どんぐりが、かしの大木に成長する如く、神の閃めきを有するものはみな、大木である神の如くに成長するのである。願わくば自分自身を信じ、神の導きを信ずる信仰あらんことを。

感謝しまつる、神よ

何来たらんも
道に止りては
夜、昼となく
汝に語りまほし。

かつて天国に発し、それ以来続いている戦いは、今や人の子らも危機にひんして、その最高潮に達しようとしている。それ故、この話は、実は武器をとれとの叫びなのである。

備えをせよとの呼び声は、会員各自に神の予言者たる大管長が発するのであって、最も重要な呼び声である。備えは先ず心に始まり、そして指先、つま先に及んで行くべきである。各自が自らの運命の支配者、魂のかしらとならねばならない。

RCA (アメリカラジオ協会) のデビッド・サーノフ氏がかつて学生に向って言った、「今日諸君が直面しているのは、世界を破滅させる、または再建し得る科学の新しい力であり、この諸君の手中に入らんとしている恐るべき力が、破壊、再建のどちらの方向に向くかは、責任感と自制力と相まって諸君の神と友と自分自身への信仰の程度にかかっているのである。現今の犬儒主義、唯物主義に以て対するに、世界は霊的力の台頭を切に待っている。肉体的飢餓は除々に駆逐されつゝあるが、反って信仰と救いを求め、物質、現世を超越した古来からの価値を求める根本的飢餓が深まるであろう。その飢餓は人の霊と心とを蝕むのである。」故に我々の求めるのは波乱と、可能性に満ちた未来に対する雄々しい心と試みる信仰と靈感の望みと、耐え忍ぶ勇気とである。

「絶えず徳を以て汝の想を飾るべし。然る時は、汝の自信すること神の前に強くなりて、神権の教理は天より下る露の如くに汝をうるおさん。聖霊は常に汝の伴侶となり、汝の笏は真理と正義の変ることなき笏となり、汝の支配は永遠の支配となりて強いらるゝことなく永遠に汝に流れ込まん。」

再びかの美しき讃美歌、「我が天父」(高きに榮えて)を思い、またかのひざまずいて、「我このうつし世を去りて、このうつし身を横たうる時、父よ、母よ、天の汝が法廷にて再びまみゆべきや。されど終りに、汝が為すべしと命じ給いし事共我ことごとく遂げたらん暁、汝がゆるしを得て、御前に共に住ましめ給え。」と祈った少年の事を思うのである。各自の教育の場において努力を続ける時その祈りの答は除々にあなた方の頭にいや増し加えられるであろう。しかし常に記憶さるべきは、天父なる神は常に頭上にましまし、とりなし給い、「我に來れ」と仰せになっていることである。

神の平安と恵みがわれらすべてと共にあらんことを。われわれ一人一人がこの建物を今夜去る時、努め励んで自分を向上せしめ、知識と理解とを増し加え、恵まれざる人々、助けを求むる人々に理解と同情の手を更に進んで差し伸べんことを。神の恵みと平安が、われわれすべてにあらんことを、へりくだりて、イエス・キリストの御名により祈り奉る。アーメン。

ベンスン、マッコンキー 両長老 極東地区担当幹部に任命さる

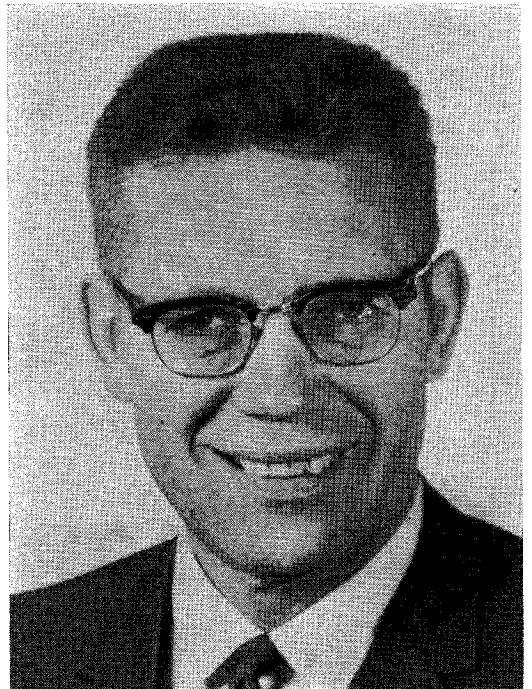


大管長会は6月1日付をもって、極東地区を担当する教会幹部として、エズラ・タフト・ベンスン十二使徒とブルース・R・マッコンキー七十人最高評議員会々員を任命した。

同時に今迄この地を担当された、ヒンクレイ使徒は、南米地区を、またハックス長老は東部アメリカ地区を担当されることになった。

たびたびアジアの地を訪問し、教会堂を献堂し、数多くの大会で素晴らしい福音を説き、豊かな祝福と導きを与えて下さったヒンクレイ使徒とハックス長老に、深く感謝の意を表します。

新しくこの任につかれたエズラ・タフト・ベンスン使徒は過去アイゼンハワー大統領



(右) マッコンキー長老

(左) ベンスン使徒

のもとで長い間農務長官を勤めたお方で、数度来日された十二使徒です。また、ブルース・R・マッコンキー長老は、ジョセフ・フィールディング・スミス副管長の義理の息子さんに当り、特に教義に精通され数多くの著書をだしておられます。現在この極東地区には、日本韓国、香港、フィリピン、タイが含まれています。



(左)

ヒンクレイ使徒



(右)

ハックス長老

小松伝道部長ご家族ありがとう

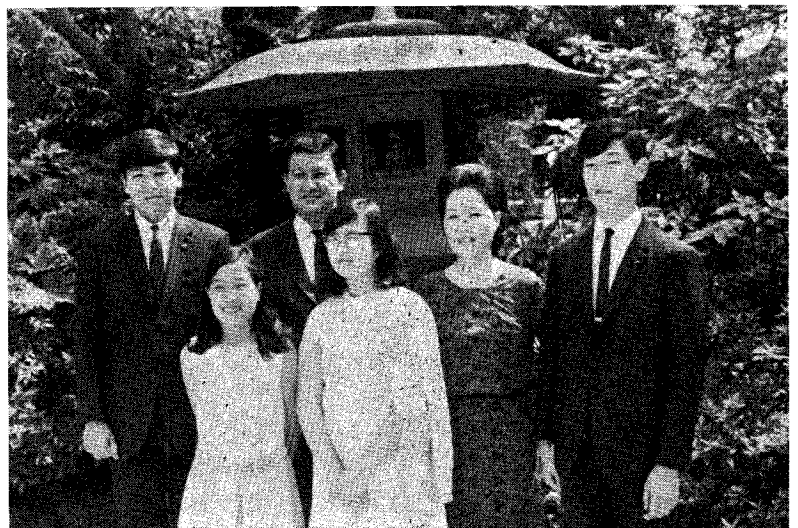


第一回神殿訪問が行なわれた1965年の夏、日本人最初の伝道部長として、来日された小松伝道部長のご家族は、このたび3年間の任務を終えられ帰国されます。

この間各地を訪問され、会員、宣教師たち一人一人と親しく交わり、監督としての豊かな体験を通して、やさしい導きを与えて下さった伝道部長ご夫妻に深く感謝いたします。

特に大会には、朝早くから夜遅くまで指導者育成のために尽力なさり、巧みな日本語で、親切な指導を与えて下さいました。日本人伝道部長として親しみ深く3年間の期間が、一瞬のように感じられま

す。ステーキ部のために残して下さいました教えを実現し、この働きに報いると共に日本での献身的な働きに対して、主の豊かな祝福がありますよう、お祈りいたします。



二人の伝道部長任命される

ビルズ長老と岡崎長老

任期を終えられ帰国される小松伝道部長にかわり、新しく二人の伝道部長が任命されました。日本伝道部は2地区に分かれ、北海道東中央地方部を、ウォルター R、ビルズ長老が、西中央、九州、沖縄地方部を、エドワード岡崎長老が担当されます。なおビルズ長老は、7月16日午後2時25分羽田着の日航機で、来日の予定です。

また、エドワード岡崎長



老は、8月下旬来日の予定です。



＜写真＞上は、ビルズ伝道部長ご家族。

下は、岡崎伝道部長ご家族

旭川支部建築はじまる！

札幌支部に引き続き、最北の地旭川によいよ建築が始まった。6月10日 建築部からハーディング監督、小松伝道部長、渡辺副伝道部長、柳沢北海道地方部長たちがこの地に集い安田旭川支部長を始め朝早くから集った兄弟姉妹と共に、「くわ



入れ式」を行った。この建築を指揮するのは、群馬、札幌の教会堂建設に貢献したチェデスター監督で、6月12日再度来日された。信仰深い聖徒たちの力によって、この北海道の地に再び主の御国が築きあげられる。

＜写真＞中段(左)小松伝道部長(中央)右より安田支部長、ハーディング監督

＜写真＞(下)はチェデスター監督ご夫妻、下段は旭川支部の会員たち



公 告

宗教法人「末日聖徒イエス・キリスト教会」は昭和43年7月1日より北海道旭川市8条5丁目に於て、教会堂の建築（新築）を開始しますので、このことを公告いたします。

昭和43年6月10日

宗教法人「末日聖徒イエス・キリスト教会」

代表役員 アドニー・

ヨシオ・コマツ

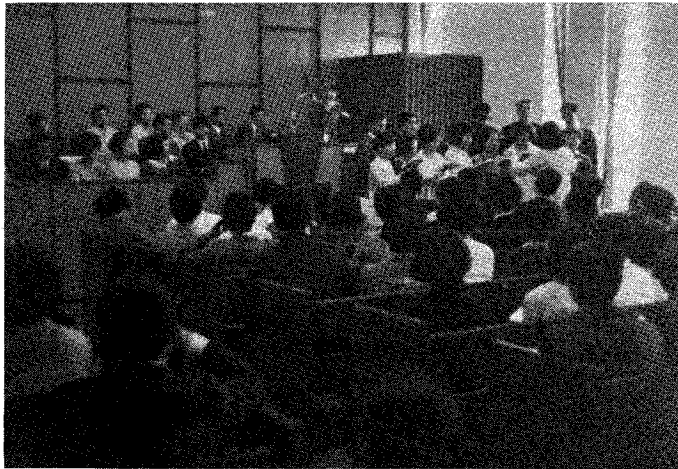


横浜大会

5月18, 19日 横浜, 東京南, 東京中央, 東京東, 松本, 甲府



一般大会での小松伝道部長



甲府LDSコーラス



横浜LDSコーラス

図書案内

図書の購入は支部長会に申し出てください

教義と聖約

高価なる真珠	上質革製合本	1,100円
モルモン経		
教義と聖約	合本	350円
高価なる真珠		
モルモン経		180円
信仰簡条の研究		330円
末日聖徒イエス・キリスト教会略史		110円
総合聖句の手引		150円
メルケゼデク神権, 教師と生徒用		
神権とあなた		450円
神の王国		230円
アロン神権のなかの祭司		185円
回復された神の教会		100円
神と人		200円
家庭に於ける神権の発揚		150円
モルモン経の新研究		320円
日本系図探求要覧		115円
求道者教育法		160円
モルモン物語		1,000円

日曜学校用

キリスト・イエス(上)	300円
キリスト・イエス(下)	300円
モルモン経物語	150円
旧約聖書物語	150円
福音の実践	200円
我等の標準聖典	200円
古代の使徒	150円
教義と聖約の教え	200円
福音の紹介	170円
完成への道	100円
モルモンとは	150円
奇しきみわざ(合本)	270円
〃 (下)	170円
家督権の祝福	100円
シオン山の救い手たち	200円
レッスンの手引	60円
霊的成長(上)	260円
霊的成長(下)	235円
福音の教え方	400円

M I A 用

我らは信じる	200円
我らは生きる	120円
私たちの生きた福音	250円
よりよいあなた	170円
生活の目標	150円
今日の十誡	250円
素晴らしい考え	200円
エンサインローレルの手引	150円
教会と私	200円

ロールブック

M I A	100円
扶助協会	100円

讃美歌及び歌集

末日聖徒讃美歌集(新版)	400円
〃 (小)	300円
リクリエーション歌集	400円
子らは歌う	220円

内なる力

十二使徒評議員会補助 スターリング W. シル

数日前の朝、家を出かける時に、私は黒いくるみを踏みつけた。それを拾って仕事に向かったが、今ここにそのくるみを手にしながら生命というものについて考えている。

このくるみは貝のように殻をかぶっており、もしその内部を見ることができれば、その石のような固い殻は網目のように非常にこみいった組織からできていることがわかるであろう。

そのいり組んだ殻の中には、大きな力を持った物質が詰っている。もしこの種子を良い環境のもとで地中に植えると、熱によりその内部に変化が起るであろう。くるみの外側からプロランプの炎をほんのわずかでも当てると、くるみの内部に熱が伝わり、くるみは大きな変化をし始める。

くるみの場合には、この石のような殻を、まるで紙でも破るように割ってしまうほどの大きな力が生み出される。そして大切な働きをするために太陽に向って小さな芽がふき出される。このくるみは大きなくるみの木になるために必要なありとあらゆる成分を、水と土と空気中から吸収する力を持っていて、大木になり、葉や花や香りを生じ、もとの種の百万倍もの豊かな実を結ぶのである。

それでも神はくるみには最良のたまものをお与えにならなかった。すべての人間は神の像に創造され、みな神の属性と潜在能力とを付与されたのである。

この世で最も素晴らしいものは、イエス・キリストの福音の原則に従って生きるすべての人がまことに奇跡的な力を与えられるという考えである。この力により、人は神のようになるに必要なありとあらゆる要素を周囲から吸収することができるのである。神がこの目的に向って努力するわれわれを祝福されんことを、イエス・キリストの御名により、へりくだって祈り奉る。アーメン。

聖徒の道

1968年7月20日発行

振替口座 東京16226番

発行人兼編集人 アドニー・Y・小松

発行所 東京都港区南麻布5-8-10

末日聖徒イエス・キリスト教会 電話(442)7438

印刷所 太陽印刷工業株式会社

定価 100円

予約 一年間 1,000円（外国4ドル50セント）

電報受信略号 「トウキョウ」マツジツ